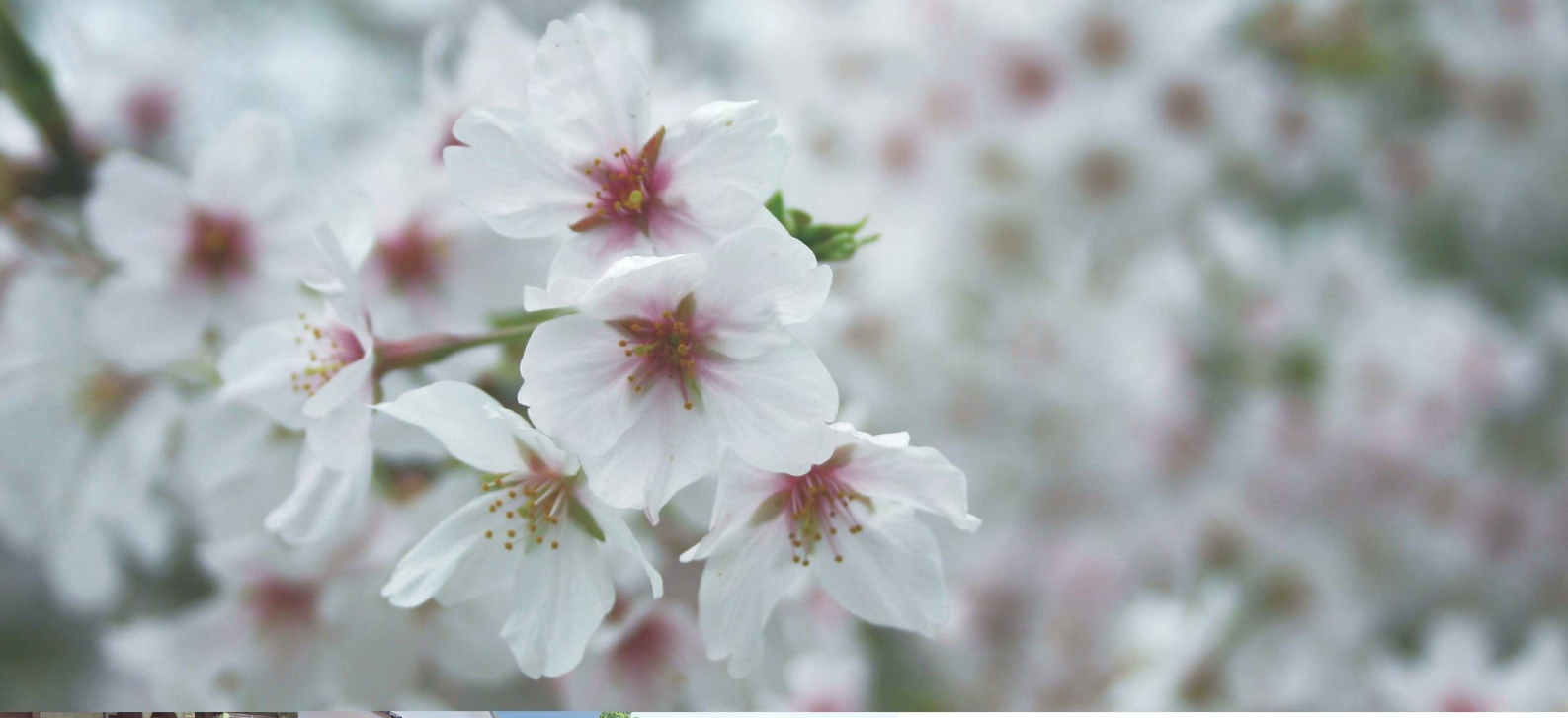
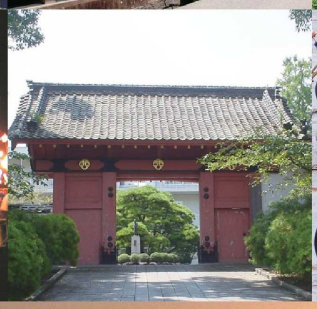




市制60周年記念

2014 Kashima City

鹿島市 市勢要覧

みんなが住みやすく
暮らしやすい　まち

目次

1. 鹿島酒蔵ツーリズム …… 3
2. スポーツ資源を活かして～まちづくり～ …… 5
3. 受け継がれる伝統美　魂の躍動 ―まつり― …… 7
4. つながる干潟交流　鹿島ガタリンピック …… 9
5. 世界にはばたくものづくり …… 11
6. 鹿島ブランドの“しるべ”連携する新たな取り組み …… 13
7. 受け継がれる伝統工芸 …… 15
8. 鹿島の逸品 …… 17
9. 大地がおりなす”美” …… 19
10. 酒どころ　鹿島を支える「水」 …… 21
11. 海の恵みに育まれて …… 23
12. 悠久の歴史を刻む（古代～中世） …… 25

「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」を目指して

これまで鹿島市は大きな自然災害などに悩まされながらも先人達のたゆまない努力に支えられて発展してきました。同じように、私たちも更に発展させて、子どもたちへと引き継がなければなりません。このようなことを改めて考えていくことが、市制60周年を迎えた意義であると思います。

「まちづくり」は「人づくり」とも言われますが、私はそのまちの独特の歴史や伝統、文化、産業などを大切にしなければ、そのまちの発展はありえないと思います。幸い、私たちのまちには、各地域に伝わる「浮立」とよばれる伝承芸能が、数多く存在し、おおよそ60の地域で80もの団体が、熱心に活動されております。また、産業面では、第1次産業が主体ではありますが、酒造りなどの加工業も盛んな地域であります。このほか、祐徳稲荷神社や肥前浜宿の歴史的な町並みなどの観光資源にも恵まれており、これらの地域資源を活用しながら市民の皆様がふるさとに誇りを持ち、「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」と感じてもらうようなまちづくりを目指していきます。

この要覧では、様々な地域資源を活かしてまちづくりを進めていく本市を紹介してまいりますので、ご覧いただき鹿島市の更なる発展にお力添えをいただければ幸いと存じます。

鹿島市長　樋口　久俊

13. 悠久の歴史を刻む（江戸）…… 27
14. 今に生きる偉人（ひと）…… 29
15. 心を学ぶ教育　ICTによる学習 …… 31
16. 人・もの・文化をつなぐ交通 …… 33
17. 魅力ある商店街づくり …… 35
18. 充実した子育て支援・医療・福祉・介護 …… 37
19. よりよい鹿島市を築くために …… 39
20. 鹿島市はこんなところ～統計からみた鹿島市～… 41
21. 鹿島市の今と昔 …… 43
22. 鹿島市の60年の歩み …… 45

酒蔵での試飲

蔵人による酒蔵案内

酒蔵観光ガイド

蔵元と参加者たちの語らい

鹿　島　酒　蔵　ツ

鹿島酒蔵ツーリズムとは・・

平成 23年 9月、世界最大規模のワイン品評会IWC（インターナショナル・ワイン・チャレンジ）で、富久千代酒造（浜町）の「鍋島大吟醸」が最高賞「チャンピオン・サケ」を受賞したことを契機に、一つの蔵の受賞を地域の活性化に繋げようと、市内の造り酒屋6蔵が中心となり、関係者が集まって「鹿島酒蔵ツーリズム推進協議会」を設立しました。まず取り組んだのが活動を PRする酒蔵巡りのイベント「鹿島酒蔵ツーリズム」。これまで行われてきた地域のイベントの開催日を同じ日にまとめ、6蔵同時に蔵開きをし 、文化・歴史なども含めそぞろ歩きを楽しんでもらおうというものです。初回には市の人口とほぼ同じ3万人が来場し、平成25年3月の第2回目には新たな地域イベントが加わり5万人が来場するなど、市をあげたイベントに成長しました。回を増すごとに観光客数や地域への波及が広がっています。また、平成24年度には市が「酒蔵ツーリズム」を商標登録。市議会は取り組みを後押しする「鹿島市日本酒で乾杯を推進する条例」を平成25年3月制定しました。

花と酒まつり（3月下旬）

肥前浜宿で、野点、酒の飲みくらべ、物産販売、新酒販売、ステージイベントが行われます。

春のイベントでは同時に蔵開きを行う「市内の酒造場　6蔵」

矢野酒造（株）

幸姫酒造（株）

（有）馬場酒造場

富久千代酒造（有）

（株）峰松酒造場

（資）光武酒造場

ー　リ　ズ　ム®

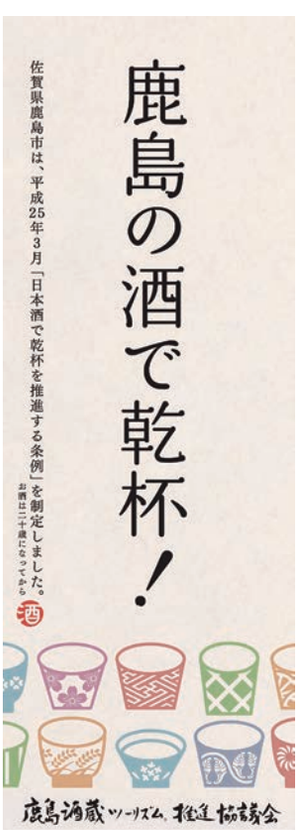
「酒蔵ツーリズム」は鹿島市の登録商標です。

祐徳門前春まつり

満開の桜並木が広がる祐徳稲荷神社の参道で、クラシックカーや働く車の展示、つきたてもちの振る舞い、和太鼓の演奏などがあります。

■ かしま発酵まつり

発酵食品のＰＲ販売や発酵クイズ、酒粕を使った創作料理の販売、酒まんじゅうの振る舞いなどが行われ、多くの来客で賑わいます。



▲日本三大稲荷祐徳稲荷神社　参道周辺がスタートゴールです
日本陸上競技連盟から認定を受けた公認コース（10Kmとハーフマラソン）です。

スポーツ資源を活かして
～まちづくり～

蟻尾山（ぎびざん）公園

蟻尾山公園は、整備面積が22haで公園内には、スポーツ施設や親子で遊べる遊具、花見広場及び展望所といろんな施設が整備されており、子供から高齢者まで市民の憩いの広場となっています。

グラウンドゴルフ場

公認のグラウンドゴルフ場で、起伏のあるコースが特徴です。

市民球場

両翼98mの野球場で観客席は、内野スタンド席で937人、外野スタンドで約9,000人が観覧できます。

陸上競技場

日本陸上競技連盟の第３種公認競技場で、１周400m８コースが設置されています。各種陸上競技のほか、中央には芝生のサッカーグラウンドがあります。

クロスカントリーコース

市民の健康づくりの場として、クロスカントリーコースが陸上競技場に併設されており、１周約1.4kmのコースがあります。自由にジョギングやウォーキングに利用できます。

幼稚園児との交流（大東文化大学 陸上競技部）

中高生との陸上教室（明治大学 競走部）

スポーツ合宿誘致

クロスカントリーコースや陸上競技場など「スポーツ資源を活かしたまちづくり」の一つとして、平成23年度からスポーツ合宿の誘致に取り組んでいます。自然豊かな環境の中での合宿は、選手の皆さんには大変好評で、H25年度までに陸上競技、レスリングの合宿で20団体403人の合宿が行われました。合宿中は、国内外で活躍する一流選手らによるスポーツ教室、合同練習、園児との交流会なども行われます。

技術指導（自衛隊レスリング班）

陸上教室（早稲田大学競走部）

陸上教室（順天堂大学陸上競技部）

保育園児との交流（国士舘大学陸上競技部）

魂の躍動—まつり—

鹿島おどり（8月）

昭和37年7月8日、鹿島を襲った大水害から立ち直るために、翌年から始まった市民総参加の「鹿島おどり」。「鹿島一声浮立」「鹿島小唄」「鹿島節」の三曲が夏の夜空に響きます。

1〜2月

ふな市

有明海では鯛があまり獲れなかったため、恵比寿様へのお供えを「ふな」で代用してきたと言い伝えられています。

祐徳稲荷神社 初午祭（はつうまさい）

2月最初の午の日に行われます。初午詣でをすると農家は五穀豊穣、商家は商売繁盛のご利益があるとされています。

3月 〜 6月

鹿島酒蔵ツーリズム®

市内の6つの蔵元が同時に蔵開きを行います。
各蔵では酒の試飲販売や様々な催しが行われます。

旭ヶ岡公園 桜まつり

鹿島藩2万石の城跡であり、「赤門」がその名残をとどめています。佐賀県三大桜の名所の一つです。

祐徳つつじまつり

祐徳稲荷神社外苑の東山公園では、5月になると一目5万本のツツジの花が斜面をうめつくします。下から仰ぎ見ると圧倒されるような景観が楽しめます。

鹿島ガタリンピック

有明海の広大な干潟を舞台に繰り広げられる干潟のオリンピックです。

受け継がれる
伝統美

かしま伝承芸能フェスティバル

秋空の下、鹿島市内はもとより県内外の
各地に伝わる多彩な伝承芸能が一堂に会し、
勇壮・華麗な舞が披露されます。

7〜9月

沖の島まいり

夜半に提灯を掲げた船が、「沖の島」へ鉦や太鼓を打ち鳴らしながら船出します。

祐徳夏祭り

祐徳稲荷神社の夏越の大祓を兼ねたお祭り。神社の境内には茅の輪が設置されており、くぐると身が清められます。また門前商店街を中心に、多彩なイベントも開催されます。

浜祇園まつり

浜町一円で奉納踊子、野畠面浮立、子ども神輿がまちを練り歩きます。

七浦秋まつり

七浦各地の神社で佐賀県を代表する面浮立などが奉納されます。

10月〜12月

秋の蔵々まつり

伝統的な町並みが残る肥前浜宿で、夏越の日本酒「ひやおろし」の時期に合わせてイベントを開催します。酒蔵を中心にアートや音楽、様々な催しが開催されます。

祐徳神社お火たき

祐徳稲荷神社で300年以上続く新嘗祭の夜の神事です。この御神火にあたると病が治り、罪や穢れが清められると言われています。

鹿島市特産品まつり

お火たき神事にあわせて祐徳稲荷神社参集殿で開催されます。市内の主要な特産物やお土産などが展示即売されます。

1985年（昭和60年）に始まった有明海の広大な干潟を舞台に繰り広げられる干潟のオリンピック。2014年（平成26年）で30回を迎えました。ガタスキーやガターザン、ガタチャリなど、ユニークな競技に出場者はもちろん観客も楽しめるイベントです。

つながる干潟交流

鹿島ガタリンピック

鹿島ガタリンピックを支える人たち

鹿島ガタリンピックは鹿島市のまちづくり団体「フォーラム鹿島」を中心としたボランティアの方々が企画運営をされています。このボランティアの方々なくして、鹿島ガタリンピックは語れません。

国際交流

■ 韓国 高興郡（こふんぐん）との交流

1988年（昭和63年）の第4回鹿島ガタリンピックに同じ干潟を持つ高興郡の選手団4名を招待したことをきっかけに交流が始まりました。1997年（平成9年）1月22日「鹿島市・高興郡友好結縁」を締結し、「ひと」と「ひと」との心の交流を続けています。

■ 定期訪韓

交流が始まってから毎年、少なくとも1回ずつの往来を重ねています。
鹿島市からは、高興郡民の日（11月1日）の祭典にあわせて訪問をしていましたが、2011年（平成23年）からは高興マッドリンピック（高興郡版ガタリンピック）が開催されることとなり、それにあわせて訪問しています。

■ 釜山外国語大学校との交流

1992年（平成4年）の第8回鹿島ガタリンピックに教授をはじめ学生22名が参加されたことをきっかけに交流が始まりました。
2003年（平成15年）10月30日に大学と市での国際交流協定を締結しました。訪れる学生の数も増え、現在では40人程度の学生の受け入れを行っています。

世界にはばたく ものづくり

地場企業として、世界で４０％のシェアをもつ
船舶用エンジンのシリンダライナ製造メーカーがあります。
シリンダライナについては世界一の品質を誇っています。
これからの鹿島市の発展に大きく寄与されるものと期待されています。

鋳込み作業

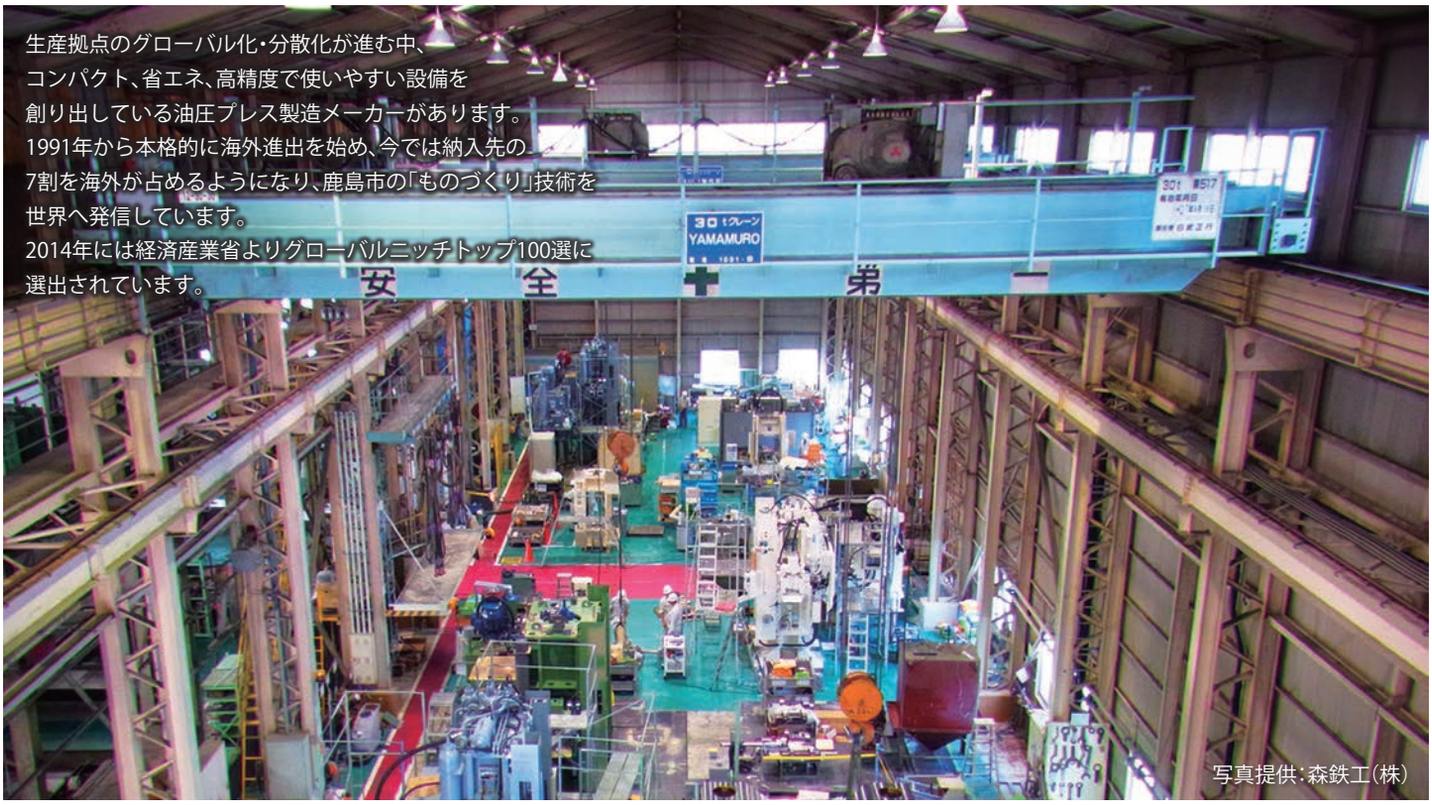
世界一の品質を誇る
「技術」

機械加工

品質管理や環境管理などの国際認証（ＩＳＯ）を取得し、製品に対する責任と地球環境との共生に積極的に取り組んでいます。

製品検査

■ 世界的にシェアを持つシリンダライナ（写真提供：東亜工機㈱）



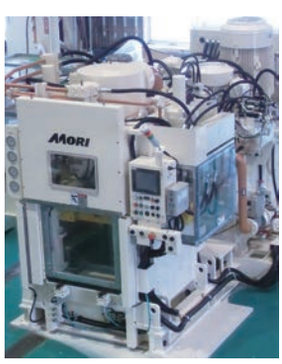
生産拠点のグローバル化・分散化が進む中、
コンパクト、省エネ、高精度で使いやすい設備を
創り出している油圧プレス製造メーカーがあります。
1991年から本格的に海外進出を始め、今では納入先の
7割を海外が占めるようになり、鹿島市の「ものづくり」技術を
世界へ発信しています。
2014年には経済産業省よりグローバルニッチトップ100選に
選出されています。

写真提供：森鉄工（株）

制御技術を極めた
ものづくり

■ ワンショットフォーミングプレス（多軸油圧サーボプレス）

「ワンショットフォーミングプレス（多軸油圧サーボプレス）」は、機械内部に置いた金属素材に段階的に荷重をかけながら、曲げや削りなど５～６工程の加工を一挙に行います。プレスの圧力や速度、加工する機械軸の動きなど、制御技術が複雑な動きを可能にしました。



■ ＭＦ技術大賞 ２０１２-２０１３表彰

アイシン・エイ・ダブリュ（株）と共同開発のこの技術でＭＦ技術大賞や日本塑性加工学会大賞を受賞しました。

■ 溶接技術講習会

鹿島機械金属工業会では、溶接技術の向上を目指して溶接技術講習会、溶接技術競技会を開催しています。現代の名工・溶接マイスターを講師に招き、鋼材の種類についての知識の習得や溶接施工の技術の研鑽を行っています。

■ 自然農法で生まれた有機栽培みかん
佐藤農場株式会社（農林水産大臣賞受賞）

平成22年に開催された第16回環境保全型農業推進コンクールにて、最高賞である農林水産大臣賞を受賞されました。佐藤農場では、昭和62年から無農薬・無化学肥料のみかんの有機栽培に取り組まれています。認証されることが難しい有機JASの認定を受けられており、安心・安全でおいしいみかんや、みかんジュースなどの加工品を生産されています。

■ 先進的農業経営
林 保さん（農林水産大臣賞受賞）

平成24年度佐賀農業賞にて、最優秀賞及び特別賞である農林水産大臣賞を受賞されました。林さんは、農業は命を支える大切な仕事だという強い思いを持って農業経営に取り組まれており、大型機械の導入による作業省力化をすることで、複数の品目の大規模栽培に取り組まれています。毎日の農作業で大変な中、生産組合長や集落営農組織の役員など地域のための活動も積極的に行われています。

鹿島ブランドの“しるべ”

■ 高品質なユリの生産
小柳 誠五さん（農林水産大臣賞受賞）

平成23年に開催された第21回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクールにて、最高賞である農林水産大臣賞を受賞されました。このコンクールでの農林水産大臣賞の受賞は、佐賀県内では小柳さんが初めてです。経費がかかり、経営が難しいユリ栽培において、家族全員での役割分担、優良品種の選定、省石油型設備の導入による生産コストの削減を行いながら大都市でも人気の高い、高品質なユリ生産が行われています。

鹿島の大地で育った大豆

大豆ドレッシング SOiSOi

SOiSOi(そいそい)は農商工連携の取組みで開発した商品で、卵が入っていないマヨネーズタイプの大豆ドレッシングです。原料の大豆は市内で作られています。

特徴

- 使用している大豆はオレイン酸を多く含む
- コレステロールゼロ
- 卵不使用
- 食物繊維が入っている

※オレイン酸とは、オリーブオイルで有名な脂肪酸です。

大学等との連携

鹿島にある自然素材の新たな可能性の発掘や耕作放棄地を活用した肉用牛の放牧など、産業振興や地域課題の解消に向けた研究を大学と連携しながら行っています。また、研究成果について市民を対象にした公開セミナーなどを開催しています。

鹿島ぽてんしゃる

福岡のシェフや卸売市場・仲卸関係者の方を対象に開催した「鹿島ぽてんしゃる」では、地元農家との交流や収穫体験、地場産業の加工体験、酒蔵見学等を実施し、鹿島の魅力を肌で感じてもらいました。また、鹿島実業高等学校の生徒たちとシェフの地元食材を使った調理交流も行い、参加者全員で会食しながらの交流を行うことができました。

連携する新たな取り組み

鹿島市産業活性化施設「海道しるべ(呼称:みちしるべ)」

団子作り体験(海道(みち)しるべ参観デー)

「海道(みち)しるべ」は地元でとれる農産物などを工夫(加工・調理)して、今までなかった食品を生み出すなど、新たな可能性に誰でも挑戦できる場所です。色々な専用の加工機器を設置した加工研究室や農業研修などができる会議室などを備えてます。場所は鹿島市と太良町を結ぶ多良岳オレンジ海道沿いです。

■ 重要無形文化財保持者（人間国宝）
鈴田 滋人　氏

昭和２９年、佐賀県鹿島市生まれ。
昭和５４年武蔵野美術大学日本画学科卒業。
昭和５６年から木版と紙型を併用する「鍋島更紗」の制作技法の研究と復興に力を注いだ父・鈴田照次の後を受け、木版摺更紗の研究・練磨を重ねてその技法を高度に体得し、独自の作風を確立されました。
日本伝統工芸展を中心に作品を発表し平成８年の第４３回日本伝統工芸展で日本工芸会奨励賞を受賞、同１０年の第４５回展ではＮＨＫ会長賞（優秀賞）を受賞されています。
さらに、平成１０年に第１１回ＭＯＡ岡田茂吉賞工芸部門優秀賞を受け、同１５年には第２３回伝統文化ポーラ賞優秀賞を受賞されました。

木版摺更紗
～現代によみがえる鍋島更紗～

「更紗」とは、室町時代後期から江戸初期、南蛮貿易などによってインドやジャワ等から舶載された、異国情緒あふれる文様の染め布です。
この影響を受けて我が国で製作されたものが「和更紗」であり、その中でも独自の技法と様式で位置づけられる「鍋島更紗」は、佐賀鍋島藩の保護のもとで製作され、その製品は献上品として使われた格調高いものです。
和更紗の技法は大きく分類すると、手書きによるものと型紙を用いるものがあり、木版摺更紗と名づけられたこの技法は、文様の輪郭線等を木版（地型）による摺りで行うとともに、その木版に合わせて彫った型紙を用いて染料や顔料を刷毛摺りし、さらに木版（上型）で線描きなどを摺り出すという、木版摺と型紙摺を併用する独自のものです。

～受け継がれる～

■ のごみ人形

鈴田照次氏によって創始されました。終戦時の混乱と飢えの中で、ともすると荒みがちな世相に、潤いと楽しさを求めて創られた郷土玩具です。戦後数年を経て、祐徳稲荷神社の境内で売り出し、魔除け、開運の人形として好評を博しました。その後、この地方ばかりでなく郷土玩具として多くの人に親しまれてきました。
素朴で、懐かしい味わいの土鈴（どれい）で、単純化された形と色合いに郷土玩具の軟らかなぬくもりが感じられます。干支を主とするさまざまな小動物の「のごみ人形」は、昭和３８年の年賀切手の図案に兎鈴が、平成３年には羊鈴、平成２６年には稲荷駒が採用され、全国にも有名になりました。

木彫刻家　四代目　小森　恵雲　氏

木彫りの仏像や人形、「浮立面」などの作品を制作。
自然木の木目を活かし彫り上げた作品において、伝統の技に創意工夫を加えた独自の世界を確立。
平成14年佐賀マイスターに認定されました。

面師　中原　恵峰　氏

木目を活かした白木仕上げの浮立面や各地の面浮立など県内に３人しかいない貴重な面師の一人です。
迫力ある鬼面作りは高い評価を受け、平成２４年には伝統的工芸品産業大賞功労賞も受賞されました。

伝統工芸

■ 鹿島錦

鹿島錦は今からおよそ２００年前、鹿島鍋島藩主直彝（なおのり）公夫人篤子（柏岡）が病の床に臥したとき、ふと見上げた天井の網代模様の面白さに心惹かれ、これで何か日用品を作れないかと側近のものに相談されたので、近習の並木某が苦心研究の末、観世縒（かんぜより）で網代形（あじろがた）を編み、印籠などを作ったのが始まりと云われています。

鹿島の逸品

工芸品

■面浮立

面浮立の踊り手「かけうち」が被(かぶ)る鬼面で、地元の面師によって制作されています。魔除け飾りや記念品などのお土産としても人気があります。

■のごみ人形

土鈴(どれい)の素朴な音色で魔除けの開運の人形として多くの人に親しまれている郷土玩具。これまでに３回、干支の人形が年賀切手のデザインに採用されています。

■鹿島錦

縦糸に上質な金銀の箔紙を横糸に色とりどりの絹糸を使った手織りの工芸品です。その繊細で優美な織物は日本手工芸の極致と呼ばれる芸術品です。

■浅浦甚八笠

浅浦地区に約300年前から伝わる竹の皮で作る「かぶり笠」の「浅浦甚八」。雨用（雨笠）と日よけ（日笠）があり、農作業や魚釣り用として愛用されています。

鹿島の大地が育てた逸品

■みかん

みかんの栽培がさかんで、何種類ものみかんが栽培されており、１年を通していろいろなみかんを味わうことができます。高品質なみかんの一部は、「さがみかんプルミエ」という品名で、都市部において高級フルーツとして取り扱われています。

■いちご

特殊な選別方法（光センサー選果機）で選ばれた最高品質のいちごは、「さがいちごプルミエ」という品名で、都市部において高級フルーツとして取り扱われています。

■マンゴー

七浦地区でマンゴーが栽培されています。大きくなった果実にネットをかけ、完熟したマンゴーを出荷されています。地元で栽培されたおいしいマンゴーは市内の直売コーナーで買うことができます。

■さがんルビー

佐賀大学が研究・開発した国内初の国産グレープフルーツです。平成12年から鹿島市で試験栽培が開始され、首都圏やホテル、料亭で取引きされています。ほどよい甘味があり果肉が外国産よりやわらかいのが特徴です。

鹿島の特産品・おみやげ

■地酒

霊峰・多良岳の伏流水と佐賀平野の最南端の米が生み出す鹿島の酒は、全国でも数々の賞を受賞しています。蔵元が魂を込めた美酒の一滴は、芳醇な香りと深い味わいの逸品です。

■稲荷ようかん

佐賀県の特産品である羊羹の中でも異彩を放つ稲荷ようかん。紙筒に入った羊羹を下から押し出して糸で好きな大きさに切って食べます。

■ふなんこぐい

昆布巻きの鮒を、大根やゴボウ等と一緒に煮込んだ郷土料理です。鹿島市では二十日正月に食べる風習があり、材料の鮒を売る「ふな市」では、早朝から多くの客でにぎわいます。

■有明海の幸

日本一の広大な干潟と最大６mの干満の差を有する有明海には、珍しい生き物がたくさん。「むつごろう」や「ワラスボ」、「クチゾコ」、「赤貝」などを蒲焼や煮物、揚げ物などに調理します。有明海に生息するカニ（シオマネキ）をすりつぶした「ガニ漬」は酒のつまみにぴったりです。

■海苔

日本一の海苔として全国にその名を知られる有明海の海苔。有明海の最大６mにも及ぶ干満の差を利用してつくられる海苔が極上の逸品です。

■カキ

沿岸沿いの国道２０７号は、冬場になるとたくさんのカキ焼き店舗が並ぶグルメ街道になります。新鮮なカキを直火で豪快に網焼きした、有明海の冬の味覚です。

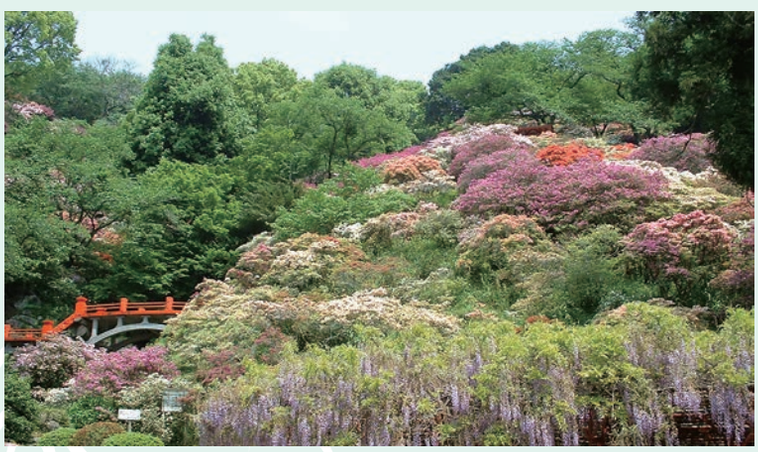
■福頭（ふくがしら）

１球６００～７００gの重さの親芋を食する里芋の品種です。甘みが強く、ホクホクした食感をしており、皮をむくときに手がかゆくなりにくいという特徴もあります。名前に「福」という字が入っているため、縁起が良いとも言われています。
１２月頃に市内の農産物直売所等で買うことができます。

大地がおりなす美

■旭ヶ岡公園の桜

春になると大勢の花見客でにぎわう桜の名所、旭ヶ岡公園。佐賀県三大桜の名所にして「一目五千本の桜」と言われており、その美しさは一見の価値があります。



■祐徳神社のツツジ

祐徳稲荷神社の外苑（東山公園）では５月になると、一目５万本のツツジの花が斜面を彩り、下から仰ぎ見ると圧倒されるような景観が楽しめます。

海の森 植林事業に取り組んでいます

美しい水の涵養のため平成７年から広葉樹を植林しています。
例年３月中旬に植林を、８月上旬には下刈り（下草刈り）を、鹿島市環境衛生推進協議会が主催し漁業者を中心とするボランティアの皆さんの協力を得て実施しています。

県内最高峰「経ヶ岳」（1076m）

佐賀県最高峰の経ヶ岳の登山道は奥平谷キャンプ場の入り口にあり、シーズンには登山客でにぎわいます。

■棚田

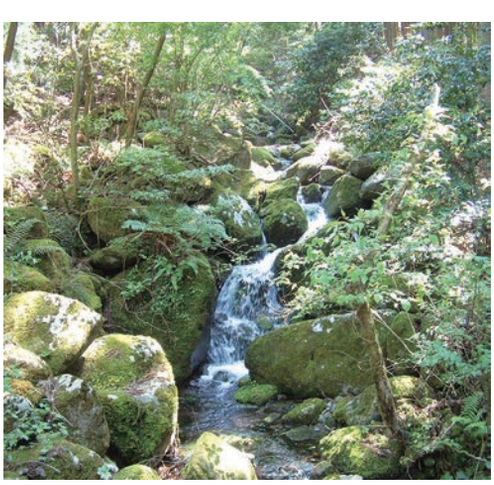
中木庭地区は、多良岳山系の谷間に小規模な棚田が点在する農村地帯です。水稲の作付けの他に、初夏の紫陽花や秋の紅葉などが棚田の四季の景観を美しく引き立てています。

■祐徳稲荷神社　日本庭園

春牡丹や桜、紫陽花や朝顔など、四季色とりどりの花々が咲き誇る日本庭園は、秋にはみごとな紅葉で色づきます。四季を感じながらゆっくりと散策できます。

■平谷渓谷

湧き出る清流と新緑・紅葉の美しい渓谷です。夏には子どもたちの格好の水遊びスポットです。



■みかん畑

佐賀県内のみかんの主産地である鹿島市には、たくさんのみかん畑があります。このオレンジ色と山の斜面から見下ろす有明海は素晴らしい景観です。秋から冬にかけて、多良岳オレンジ街道沿いのみかん畑は熟したみかんでオレンジ色になります。

鹿島の酒が全国でも最高の品質・味を誇り、数々の賞を受賞しているのは、豊かな自然に育まれたおいしい水と米、そして蔵人の手によって良質な酒が醸されているからです。

多良岳山水　水源

酒どころ「鹿島」を

木庭川（中川内付近）

■平谷の湧水

多良岳の豊かな自然に育まれたまろやかでおいしい水は市外からも水を求めて平谷地区へたくさんの方々が訪れます。

中川 上流

を支える・・・「水」

■ホタル幼虫放流

小学校４・５・６年生の教室で交尾、ふ化時点から飼育・観察しています。大きくなったホタルの幼虫は祐徳稲荷神社の上方の浜川へ放流します。ホタルの放流に適しているのは、一年を通して水が豊富で澄んだ川の中や周辺の自然環境が変化に富んでいることです。鹿島の川の水は、そういった条件を満たしています。

海の恵みに育まれて…

鹿島市沿岸の有明海は、湾の奥部に位置しており、筑後川や六角川、塩田川といった多くの河川から流れ込んだ大量の土砂が河口部に堆積し、広大な泥質の干潟を形成しています。
ムツゴロウをはじめとする干潟特有の生き物などが多く生息しており、他では類を見ない独特な世界を生み出しています。
また、古くから沿岸の人々は有明海の恵みを受けており、目の前の海から採れた産物を「前海（まえうみ）もん」と呼んでいます。有明海は身近な海として人々と生物が幾久しく共生しています。

■ズグロカモメ

■クロツラヘラサギ

■ツクシガモ

鹿島市の海岸に広がる干潟は、シギ・チドリ類、ツクシガモやズグロカモメ等の貴重な渡り鳥の重要渡来地になっており、その一部は国際的なネットワークに登録されています。

■海苔の養殖

日本一の海苔として全国にその名を知られる有明海の海苔。有明海の最大6ｍ にも及ぶ干満の差を利用してつくられる海苔が極上の逸品です。

有明海の生き物

■クラゲ

有明海に生息するクラゲ類には、ビゼンクラゲやヒゼンクラゲが食用として多く漁獲されています。水揚げしたものをミョウバンや塩に漬けた後、酢の物やごま和えにして食べます。

■ハゼグチ

日本では有明海と八代海の湾奥部だけ生息しています。マハゼと似ていますが別種です。寿命は1年です。

■ムツゴロウ

ハゼ科の水陸両生魚で、日本では有明海と八代海（不知火海）の一部のみ生息しています。潮が引いた干潟で表面にいるケイソウ類を食べ、潮が満ちてくると泥の中の巣穴に入ります。

■ガザミ

有明海に棲むカニの代名詞的存在で太良町ではタイラギとならぶ稼ぎ頭です。太良町地先で捕れるガザミを特に「竹崎ガニ」と称し、姿がよく美味しいです。

■ウミタケ

海底に殻から伸びた茶褐色の水管が茸のように見えることから「海茸」と表記されることがあります。「ねじ棒」や「簡易潜水」で漁獲されたものは、水管部分を干物や粕漬にします。

■ワラスボ

ムツゴロウと同じハゼ科の魚です。泥干潟に砂穴を掘って住んでおり、潮が満ちると巣穴から出てきて、小魚やエビ、貝など何でも餌にします。有明海では広く漁獲され、干物や煮付け等にして食べられます。

悠久の歴史を刻む（古代～中世）

藤の森

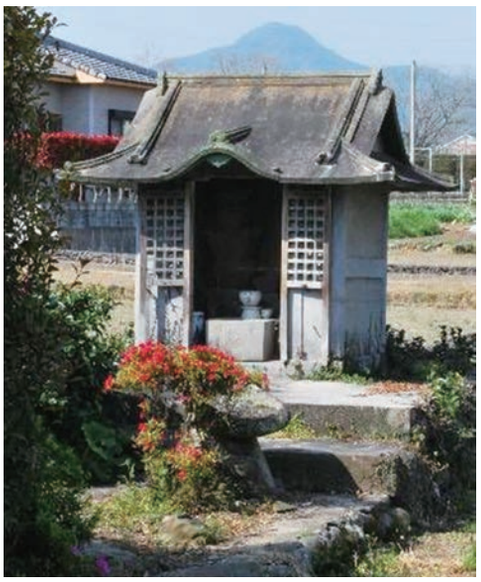
奈良時代の８世紀初めに編纂された「肥前風土記」には、現在の鹿島市を含む藤津郡の地名の由来として、この地に日本武尊（やまとたけるのみこと）が訪れたときに、大きな藤の木に船をつないだことが由来であると書かれています。今でも納富分末光には「藤津」という地名の場所があり、風土記に伝えられる場所ではないかと考えられています。現在、公園の一角に「藤津」の碑が建てられています。

蓮厳院

平安～鎌倉時代、藤津地方が京都の仁和寺の荘園だった時代に、現在の蓮厳院のあたりに金剛勝院という壮大な寺院が建てられました。この寺院は荘園を管理する役所も兼ねていたと考えられています。蓮厳院には現在も平安時代末に造られた壮麗な定朝様式の阿弥陀如来像（国重要文化財）が残され、当時の京都文化の華やかさを今に伝えています。

寛蓮石碑

橘良利（寛蓮）は平安時代の人で、当代随一の囲碁の名人であったことから碁聖と呼ばれました。「碁聖」は傑出した囲碁の名人に対する尊称で、現代の囲碁の７大タイトル戦の一つともなっています。鹿島市では寛蓮の故郷にちなんで、1952（昭和27）年から毎年春に祐徳稲荷神社において「祐徳本因坊戦」が開催されています。祐徳稲荷神社外苑には『碁聖寛蓮之碑』があり、台座には歴代本因坊の名が刻まれています。



橘園

鹿島藩4代藩主鍋島直條がまとめた『鹿島志』では、『橘園』は橘氏一族にゆかりのある場所で、肥前藤津出身の歌人で囲碁の名人でもあった橘良利（寛蓮）の旧居ではないかと推定しています。現在は江戸時代初期のものと考えられる有耳五輪塔が2基と、1701（元禄14）年に建てられた大神宮の自然石塔が1基建っています。

寛蓮の逸話

寛蓮は囲碁の名手であったため、その逸話が「今昔物語集」に2度登場します。一つは、醍醐天皇を寛蓮がやりこめるという話です。醍醐天皇は歴代の天皇の中でも最強の囲碁の打ち手で、よく禁中（宮中）に寛蓮を呼び寄せて対局していたのですが、賭け物の「黄金の枕」を与えては取り返すということを繰り返します。そこで一計を案じた寛蓮は、天皇の裏をかき、まんまと賭け物の「黄金の枕」を手に入れ、寛蓮はそれを元に弥勒寺を建立したということです。もう一つは、無敵の寛蓮が、見知らぬ貴婦人に完膚なきまでに叩きのめされ、ほうほうの体で逃げ帰ったというもの。この貴婦人は変化のもの（妖怪）であったと噂されたそうです。

誕生院

誕生院は真言宗の復興に力を注ぎ、新義真言宗の開祖ともなった「興教大師覚鑁（かくばん）」生誕の地に建てられた寺院です。1405（応永12）年に創建されましたが、中世に兵火で焼けた後は長い間寺は無く、「誕生院」や「覚鑁屋敷」という地名だけが残っていました。1913（大正2）年に鹿島藩13代藩主鍋島直彬ら有志によって再興されました。

悠久の歴史を刻む（江戸時代）

祐徳稲荷神社

祐徳稲荷神社は、鹿島藩３代藩主鍋島直朝の後室「萬子（まんこ）」に由来する神社です。晩年出家した萬子は、１６８５（貞享２）年古枝の普明寺の末寺として、この地に石壁山祐徳院を建て入寺しました。その時に京都から嫁入りの時に持ってきた稲荷大神を同時に祀りました。萬子は１７０５（宝永２）年この地で亡くなりますが、その後萬子のおくり名から祐徳稲荷神社と呼ばれるようになりました。

普明寺

普明寺は黄檗宗（おうばくしゅう）の寺院で鹿島鍋島家の菩提寺です。３代藩主鍋島直朝の長男、直孝は早くから出家していましたが、黄檗宗に深く帰依し、黄檗宗を日本に伝えた隠元の孫弟子である能古見福源寺の住職「桂巌（けいがん）」を迎え、自分の住居があった場所に、普明寺を開山しました。寺域には中国の影響を受けた山門や本堂が建ち、墓所には直朝から現在までの鹿島鍋島家の墓石が立ち並びます。

泰智寺

鹿島藩初代藩主鍋島忠茂が先に亡くなった夫人の霊を弔うため１６２３（元和９）年に建てました。１６５０（慶安３）年浜町に大火があり、寺門を残してことごとく焼失し、１７４３（寛保３）年６代藩主直郷の代に再建されました。当時、藩の財政が苦しかったため、本堂は一部古材を使った仮本堂だということですが、火災を免れた楼門は堅固で雄大なつくりです。

香取市との交流

千葉県香取市には、かつて鹿島鍋島家の領地があり、上小川の円通寺には、初代藩主鍋島忠茂の墓所も残っています。このような縁から交流がなされてきましたが、平成２４年「伊能忠敬※来鹿２００年記念事業」の際、伊能忠敬の旧宅が香取市にあることからさらに交流が深まり、同年『ふるさとの自然、歴史、文化を活かしたまちづくり連携に関する協定』が締結されました。両市は、重要伝統的建造物群保存地区があるなど、共通したところが多く、今後はまちづくりや産業の交流など連携して推進していく予定です。

※日本で初めて正確な日本地図を作製した人物。平成２４年は、伊能忠敬が測量のために鹿島を訪れてから２００年の記念にあたり様々なイベントが行われました。

円通寺（香取市）

■赤門

鹿島城の本丸御殿の表門で、古くから丹塗りであることから「赤門」として親しまれています。門の構造は切妻造、桟瓦葺きの薬医門とよばれる形式で、門の右側には番所が附属します。棟札から鹿島城が落成した１年後の１８０８（文化５）年に建立されたことがわかります。江戸時代の鹿島鍋島藩の居城であった鹿島城は、それまで北鹿島の常広にあった常広城を幕末に近い１８０７（文化４）年に移転したものです。

■武家屋敷

現在「城内」とよばれる地区は、その名のとおり旧鹿島城の城内にあたり、地区内には数多くの武家屋敷が点在していました。高禄の武家は大手門から本丸（現鹿島高校）までの間の道沿いと本丸の裏に屋敷を構えていました。また下級武士は城内ではなく鹿島領内に点住し、農業や商業を兼業していました。現在城内に残る武家屋敷は非常に数が少なくなりましたが、本丸裏は現在も武家屋敷の面影を残し、武家屋敷通りとよばれています。

■思瓊神社

藩主として多くの堤・干拓・水路の築成を行い、名君の誉れ高い３代藩主直朝を慕い、祀った神社です。市内に数ヶ所あります。写真は花木庭にある神社です。

■肥前浜宿継場

この建物は、肥前浜宿の旧太良海道沿いに建っており、江戸時代に宿場から宿場へ荷を運ぶための人や馬を継ぐ「継立（つぎたて）」という業務を行っていたことから、「継場」とよばれています。道路に面した切妻造の間口４軒半の商家で、江戸後期頃の建築と考えられます。明治以降、継場としての役割を終えた後は呉服問屋として使われていました。

■鍋島　直朝

鹿島藩３代藩主である鍋島直朝は、佐賀本藩の初代藩主勝茂と不仲になり、絶縁して下総国矢作（現千葉県香取市）に去った２代藩主鍋島正茂の後を受け、１６４３（寛永２０）年鹿島藩主となりました。直朝は武においては柳生流を体得し、文においては書画に通じ歌道にも優れた才能を示しました。

今に生きる ひと 偉人

【作者】冷泉為恭　【作品名】囲碁図（部分）　【所蔵先】東京国立博物館
image：TNM Image Archives

■平安の対局

平安時代の囲碁の名人。日本で初めて『碁聖』と呼ばれた人物。913（延喜3）年、『碁式』（囲碁のルール）を醍醐天皇に献上しました。宇多・醍醐両天皇に仕え、一条兼良の『花鳥余情』（1472（文明4）年成立）によると、『備前掾橘良利肥前国藤津郡大村の人也。出家して名を寛蓮という。』とあります。肥前国藤津郡大村とは、鹿島市の大村方付近と考えられ、鹿島市行成付近には、橘氏との関係を記す、「橘園」という地名が残っています。

碁聖寛蓮

■祐徳本因坊戦

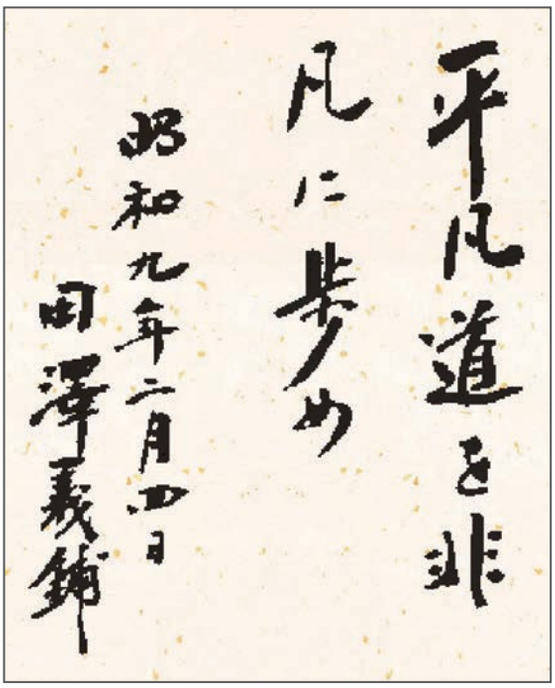
毎年5月頃、祐徳稲荷神社の参集殿において祐徳本因坊戦が行われます。

■ヒカルの碁

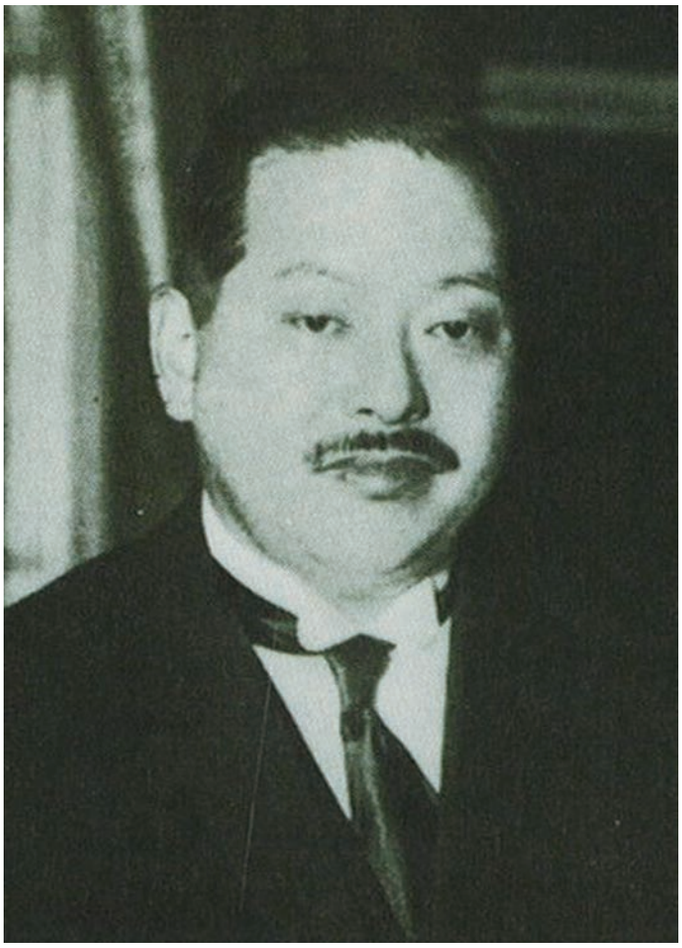
放課後子どもプランの一環として、子どもの居場所作りを当初の目的として開始されましたが、囲碁本来の持つ魅力を子どもたちに指導することで、「礼儀」や「忍耐力」、「世代間交流で養う人間性」など次代の鹿島市を担う子どもたちの育成の場ともなっています。

■天元戦

7大棋戦の一つ天元戦。1987年に鹿島市で開催されてから26年ぶりに祐徳稲荷神社で行われました。



青年団の父
田澤義鋪



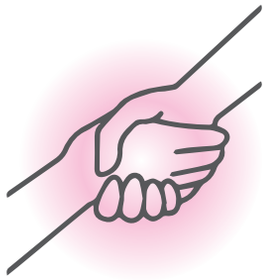
■田澤 義鋪（たざわ よしはる）

1885（明治18）年7月20日-1944（昭和19）年11月24日。大正期及び昭和初期の社会教育家、政治家、思想家。鹿島市城内出身。東京大学政治学科卒業と同時に、２５歳で静岡県阿部郡長に就任。早朝から夜遅くまで働くだけの青年たちの実態を知り、故郷や日本の将来を背負うべき青年の活躍に期待し、全国の青年教育に情熱を注ぎました。その後も田澤は青年教育と政治教育そして選挙粛正に一生を捧げ、とりわけ青年団運動及び青年教育に尽力した活動が知られており、「青年団の父」と称されています。

■ユースカレッジ（青年研修）

田澤記念館では、１年間を単位として鹿島市内企業の若手社員を対象に毎月１回「田澤精神の学習」「職場における社会人としてのあり方」を学習しています。田澤義鋪が行った青年教育は今も脈々と受け継がれています。

心を学ぶ教育



■鹿島市少年体験活動事業（鹿島ドリームシップ）

鹿島市の将来を担う少年少女が「きまりと助け合い」を基本とした研修を通して、互いの友情を深め合い、団体生活のルールや参加のあり方などを学び、豊かな心とたくましい体を育てることを目的とし、市制３０周年記念事業としてスタートしました。鹿島での事前研修を経て、沖縄を本研修とし地元小学生との交流会、沖縄本土での平和学習など、小・中学生時代に貴重な体験をすることで情緒豊かな青少年の育成を目的としています。

■市内小学校音楽会

市内小学校児童による音楽会を開催し、児童同士の交流と、音楽への関心や技能を高めるとともに、豊かな情操を養うことを目的として行っています。

■福祉体験授業

「福祉のまちづくり」のために、市内の小中学校では、車いす・アイマスク・高齢者疑似体験・手話体験などの学習やボランティア活動を行い、地域に貢献する温かい人間性豊かな人の成長を図っています。

地域での仲間、絆づくり　生涯学習

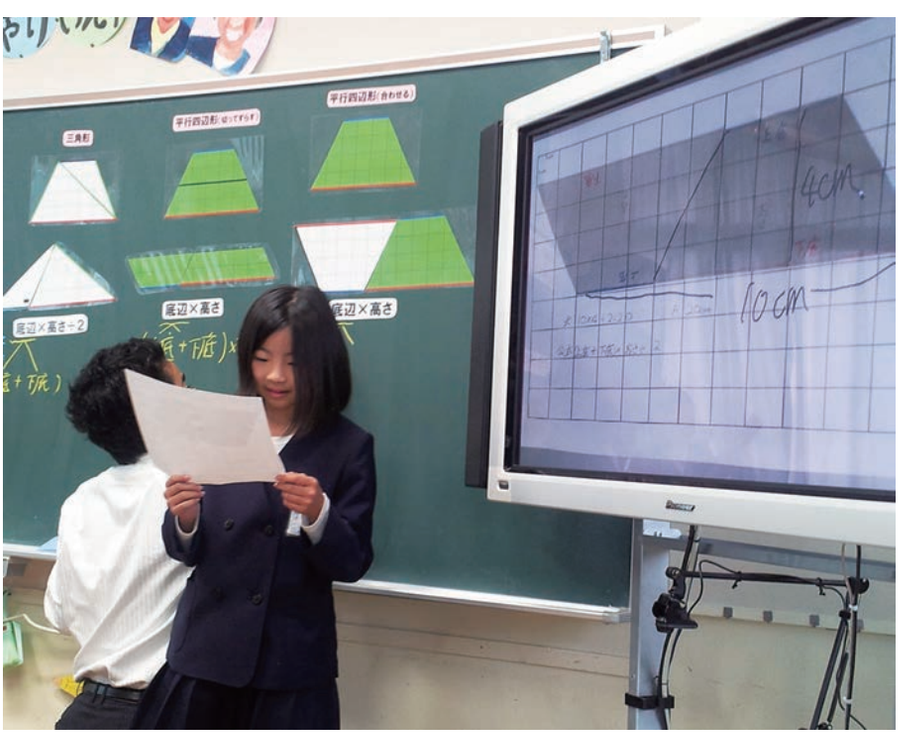
■えいぶる講座

えいぶる講座では、語学・音楽・芸術・料理・健康づくりなど様々なジャンルの講座を開講しており、エイブル倶楽部会員に入会すれば市内・市外問わずだれでも受講することができます。会員以外の方でも受講できる公開講座や会員対象の無料講座を実施しています。

■ゆめさが大学

ゆめさが大学鹿島校は、シニアの皆さんが学習活動を通じて新しい仲間と出会い、また自己の新しい生き方を創造し、地域社会で明るく積極的に活動してもらうことを目的に設立されました。これまで培われてきた経験を生かしつつ、また地域活動やふるさとなどを学び、そして新たにチャレンジすることで、楽しみながら「ゆめ」をかたちにすることをめざしています。平成１３年に開校し、卒業生は６００人を超え、地域のリーダーとしてたくさんの方にご活躍いただいています。

ＩＣＴによる学習



■電子黒板を活用した授業

電子黒板は「分かる授業」を目指した学習支援ツールとして全国的に広がり、現在、各教室１台の設置を進めています。電子黒板は教科書やノートを拡大したり、写真や図などに書き込んだりとこれまでの黒板を使った授業ではできなかったことが可能になりました。
また、授業に対する集中力アップや学習意欲の向上と共に、思考力・判断力・表現力が身につく効果もあります。

人・もの・文化をつなぐ交通

恵まれた自然環境をつなぐ「オレンジ海道」

多良岳オレンジ海道

平成２３年３月５日に全線が開通しました。
鹿島市浜町から長崎県境を結ぶ広域農道です。

暮らしを支え地域をつなぐ

■市内循環バス

市街地と鹿島地区の住宅地を循環するバスを運行中です。市内の主な公共施設・病院・商業施設を通ります。

■のりあいタクシー

城内・高津原地区と市街地の病院や商業施設などを結ぶ「のりあいタクシー」です。小型タクシーで走ります。

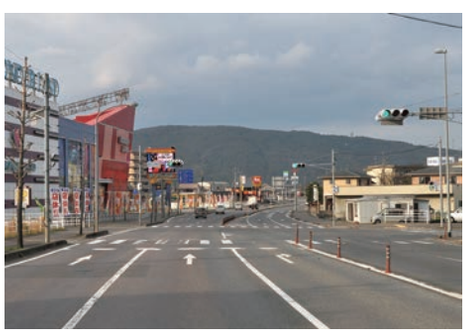
都市圏をつなぐ中間拠点「ＪＲ長崎本線」

■JR肥前鹿島駅

鳥栖駅で鹿児島本線から分岐し、佐賀駅を経て長崎駅まで伸びる路線です。有明海の入り組んだ沿岸部を走り、車窓からは雄大な干潟や緑あふれる自然を見ることができます。また、通勤や通学、都市圏をつなぐものとして、その役目を担っています。

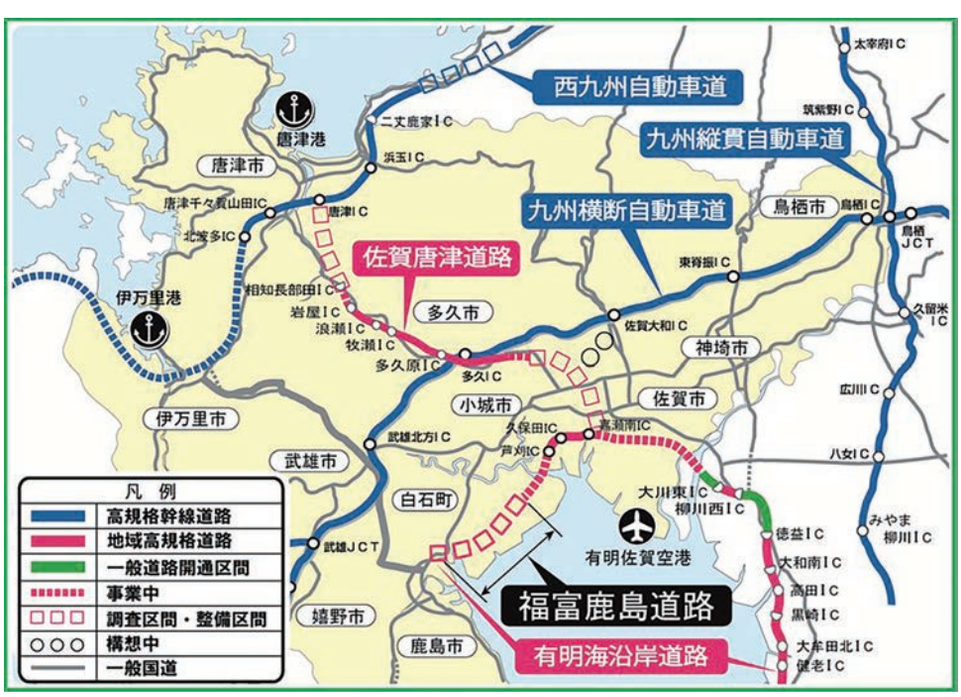
■国道207号

国道207号はJR長崎本線とともに有明海沿岸を南下する道路であり、鹿島市民の大切な交通網となっています。



有明海沿岸をつなぐ未来のかけ橋「有明海沿岸道路」

有明海沿岸道路は、福岡県大牟田市から当市を結ぶ延長約55kmの地域高規格道路で、有明海沿岸の都市間相互の連携を強化するとともに、佐賀唐津道路や九州横断自動車などと高速交通ネットワークを形成し、有明佐賀空港や唐津港等の主要施設と連絡することにより、人・物資等の交流促進を図る路線です。この道路整備は、有明海沿岸地域の新たな連携、交流を生む「地域連携軸」としての一翼を担うばかりでなく、災害時における「命をつなぐ道」として大きな役割が期待されています。



魅力ある商店街づくり

中心商店街は、街路事業による整備を経て魅力ある商店づくりを目指しています。

鹿島発酵まつり

まちなか博物館

ぶら歩き 鹿島のまち

祐徳門前商店街

祐徳稲荷神社へと続く約390メートルの参道に土産物屋や食事処が軒を連ねる商店街です。
名物「稲荷ようかん」や「のごみ人形」、「手焼きせんべい」など鹿島のお土産品が豊富にそろっています。春には風情ある桜並木が訪れる人の目を楽しませています。

207号バイパスに隣接し車での買い物客で賑わっています。商業施設のまわりには、住宅やマンションが立ち並び周辺部からの人口流入が多い地区です。

充実した子育て支援・医療・福祉・介護

次世代を担う子どもたちが、のびのびと、健やかに、心豊かに育つよう、保育園の環境を充実させ、小学校就学児童には放課後も子どもたちが安心して過ごせる場所を提供、また保護者に対しては育児相談や子育て中の家族同士の交流の場を提供するなど安心して子育てできる環境づくりに取り組んでいます。

ライフステージに応じた健康づくり

妊娠中はマタニティースクール、出産後は離乳食教室や幼児食教室、そして大人になってからの疾病予防に関する教室などライフステージに応じて、そのときに生じる不安や問題について解決の手助けができるように健康づくり教室を開催しています。

いつまでも健康でいるために

妊婦、赤ちゃん～大人までの
健康診断を行っています。

4ヶ月児健診

子宮・乳がん検診

- 妊婦健診
- ４ヶ月児健診
- １才６ヶ月児健診
- ３才６ヶ月児健診
- 結核健診
- 肝炎ウィルス検診
- 骨粗しょう症検診
- 各種がん検診（胃・肺・大腸・前立腺・乳・子宮）

口コモ予防教室

地域包括ケアシステムの構築

高齢者（地域住民）が住み慣れた地域で安心して尊厳ある、自分らしい生活を継続することができるように介護保険制度による公的サービスや、多様な社会資源を活用できるよう他職種協働によるネットワークを通じて包括的・継続的に支援しています。

快互（かいご）のつどい（ヨガ）

寸劇を交えた認知症サポーター養成講座

行政

市長　樋口 久俊

副市長　北村 和博

教育長　江島 秀隆

みんなが住みやすく
暮らしやすいまち

本市の豊かな自然の恵みを守り、育んでいくとともに、産業の振興、福祉・保険・医療の充実、建設環境の整備、教育文化の向上を図ることにより、本市が「住みやすく暮らしやすいまち」と市民の皆様に感じていただけるようなまちづくりを目指しています。

よりよい鹿島市を築くために

build a better city of kashima

議会

市民の声を反映するための開かれた審議の場

議長　松尾 勝利

副議長　松本 末治

市議会は、市民の皆さんを代表する議員の合議によって、市政運営の方針である予算や条例等を審議・議決したり、市政が適正に行われているかチェックしたりする機関で「議決機関」といいます。１６人の議員で構成され、本会議は年４回の定例会と必要に応じて開かれる臨時会があります。また、「総務建設環境」、「文教厚生産業」の２つの常任委員会と「鹿島ニューディール構想調査特別委員会」を設置しています。

Kashima City Infomation

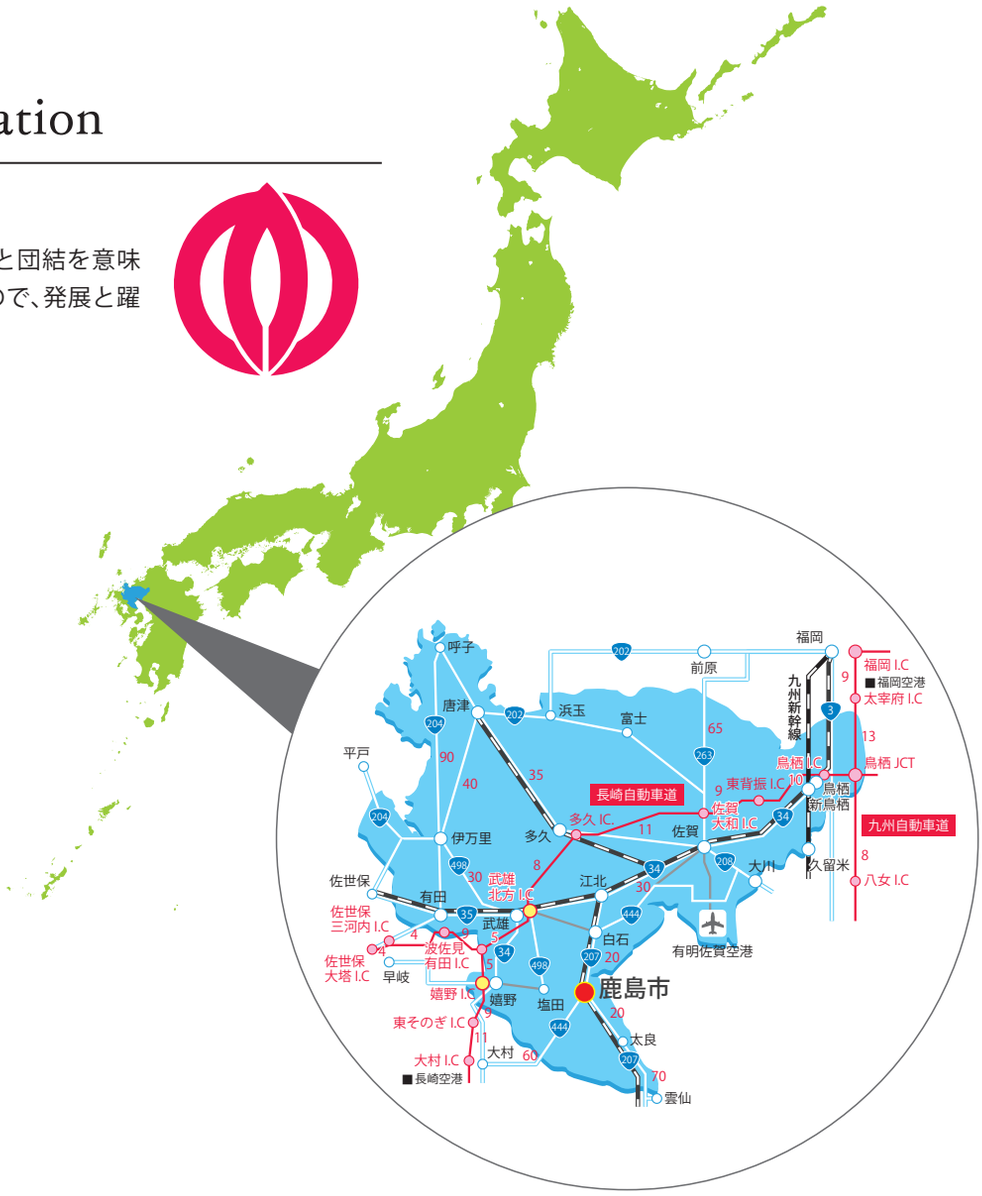
■鹿島市章

「かしま」の「か」を図案化したもの。円は融和と団結を意味し、頂点の尖りは永久の向上を表しているもので、発展と躍進を全体でまとめたものです。

■市の花・木

【市の花】サクラ

【市の木】キンモクセイ



ACCESS

高速道路で

武雄北方I.C
↓10分
塩田
↓15分
鹿島
↑15分
塩田
↑10分
嬉野I.C

JRで

JR博多駅
↓55分
JR肥前鹿島駅
↑56分
JR長崎駅

バスで

JR佐賀駅
↓50分
鹿島バスセンター
↑30分
嬉野温泉

九州外からのアクセス

飛行機

■大阪→福岡【1時間10分】
■羽田→福岡【1時間50分】■羽田→佐賀【1時間50分】

高速バス

■天神バスセンター→佐賀駅【1時間16分】
■福岡空港→佐賀駅【1時間15分】

電車

■博多駅→肥前鹿島駅【特急：約55分、普通：約100分】

高速道路

■福岡I.C→武雄北方【約49分】★武雄北方IC下車で約25分

■鹿島市民憲章（昭和54年4月1日制定）

鹿島市は、多良岳と有明海の自然の恵みによってはぐくまれた伝統ある城下町です。
わたくしたちは、「ふるさと鹿島」をより豊かな住みよいまちにするために、この市民憲章を定めます。

一、花と緑を愛し、伝統をいかして美しいまちにしましょう。

一、知識と教養を深め、清新な文化のまちにしましょう。

一、感謝と思いやりの心で、うるおいのあるまちにしましょう。

一、明るく元気に働き、活力あるまちにしましょう。

一、秩序やきまりを守り、安全で快適なまちにしましょう。

■鹿島市民の歌

作詞　古賀敬梧　　補作　野田尚司　　作曲　伊東直樹

一、
はろばろと　多良の山なみ　おう　みどりの　麓　わがまち　ふるさと鹿島
友よ　いざ　手をつなぎ　　友よ　いざ　歌おう
峰の高みへ　明日への希望

二、
有明に　潮は満ちきて　おう　日はのぼる　磯辺　わがまち　ふるさと鹿島
友よ　いざ　手をつなぎ　　友よ　いざ　歌おう
寄せてはかえす　明日への波を

三、
咲き匂う　丘の桜よ　おう　赤門の　城下　わがまち　ふるさと鹿島
友よ　いざ　手をつなぎ　　友よ　いざ　語ろう
古い　歴史よ　明日への力

鹿島市はこんなところ

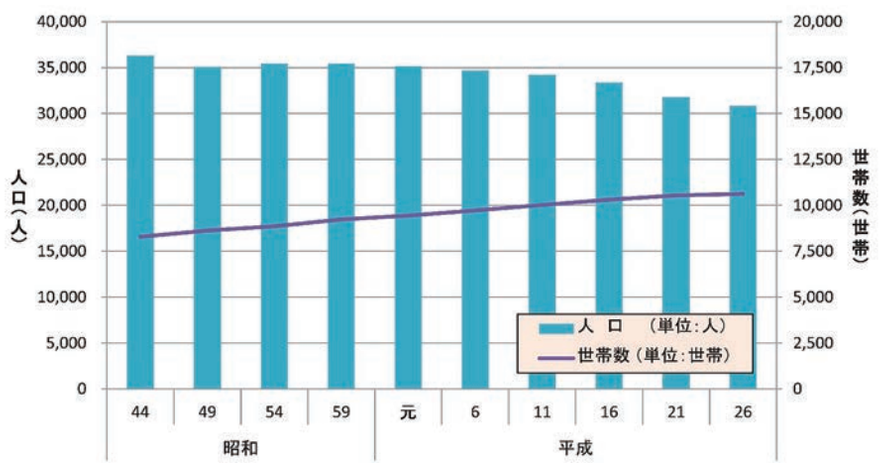
統計から見た・・鹿島市

■人口・世帯

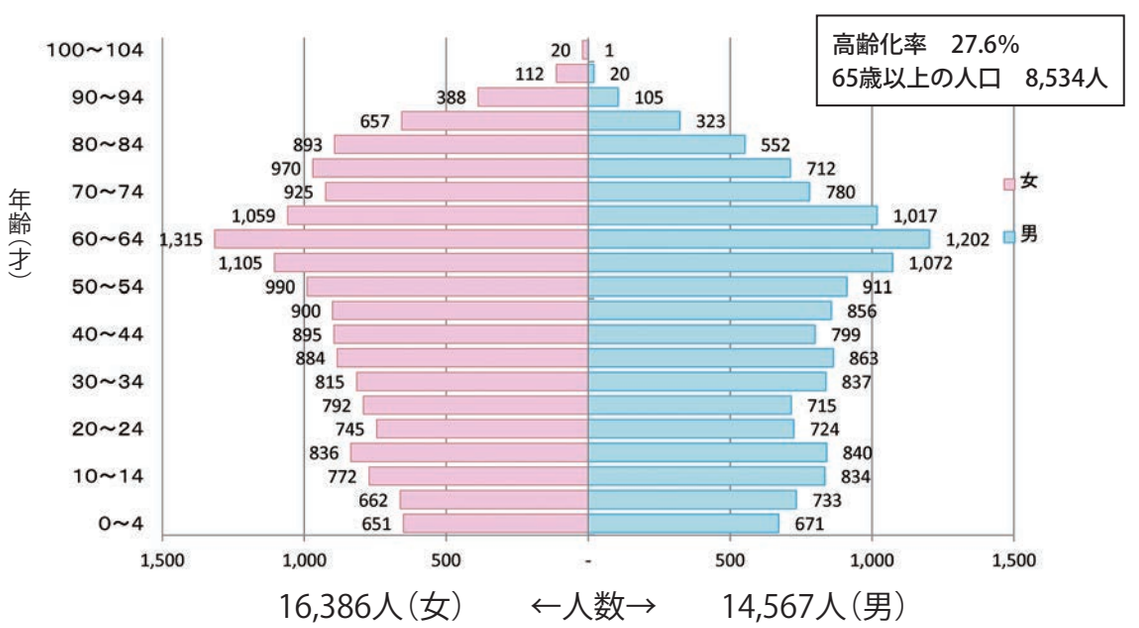
●人口・世帯数・男女別人口の推移（各年3月31日現在、住民基本台帳を基にした参考値）

年次		世帯数（単位：世帯）	人口（単位：人） 総数	男	女	1世帯当人口	面積㎢	人口密度
昭和	41	7,741	37,845	18,004	19,841	4.9	108.97	347.3
	42	7,799	37,665	17,909	19,756	4.8	108.97	345.6
	43	7,824	37,116	17,671	19,445	4.7	108.97	340.6
	44	8,279	36,290	17,229	19,061	4.4	108.97	333.0
	49	8,624	35,069	16,663	18,406	4.1	109.76	319.5
	54	8,853	35,428	16,866	18,562	4.0	110.97	319.3
	59	9,228	35,441	16,786	18,655	3.8	111.04	319.2
平成	元	9,434	35,159	16,579	18,580	3.7	112.09	313.7
	6	9,716	34,681	16,397	18,284	3.6	112.08	309.4
	11	10,018	34,188	16,119	18,069	3.4	〃	305.0
	16	10,303	33,352	15,706	17,646	3.2	〃	297.6
	21	10,536	31,790	14,913	16,877	3.0	〃	283.6
	26	10,627	30,831	14,534	16,297	2.9	〃	275.0

鹿島市の人口と世帯数の推移



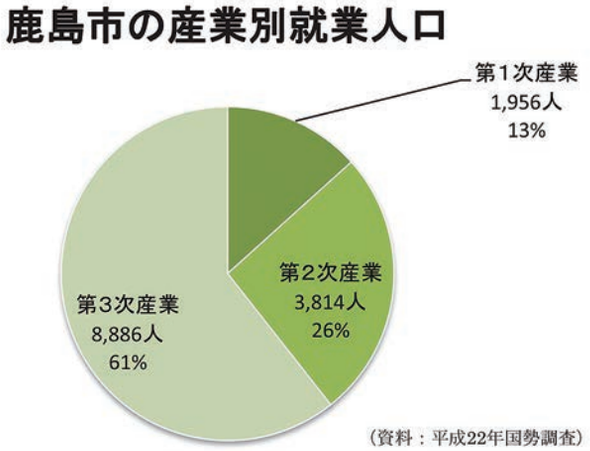
●年齢別人口ピラミッド（平成26年4月1日現在、住民基本台帳を基にした参考値）



■産 業

●産業別就業人口の推移（平成22年国勢調査）

第１次産業就業者数（人）	第２次産業就業者数（人）	第３次産業就業者数（人）
1, 956人	3, 814人	8, 886人
13. 3%	26. 0%	60. 6%

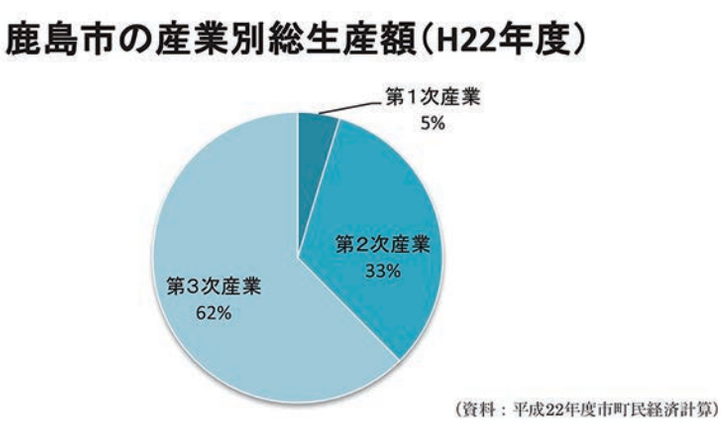


（資料：平成22年国勢調査）

●産業別生産額（平成22年度市町民経済計算）

市内総生産額	（百万円）
第１次産業	4,353
第２次産業	30,545
第３次産業	57,958
計	93,379

※輸入品に課される税等を含んでいるため、
合計と一致しない

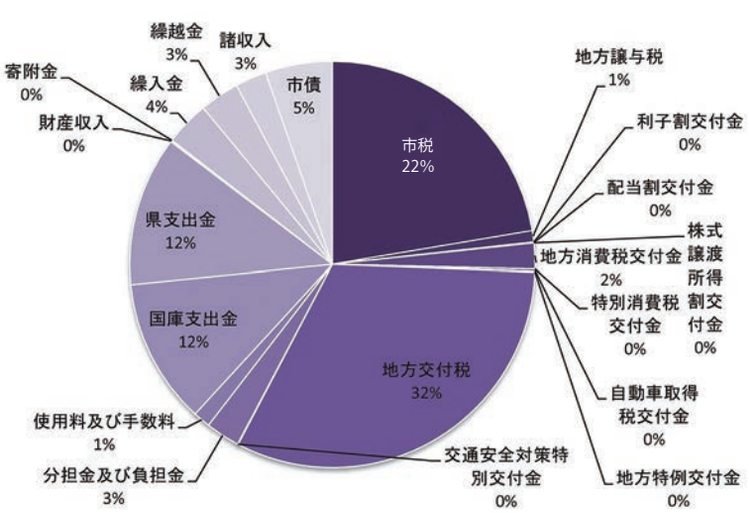


（資料：平成22年度市町民経済計算）

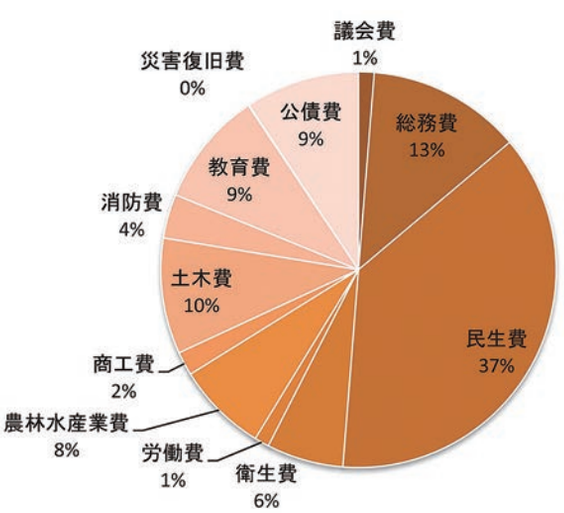
■財 政

●一般会計歳入・歳出決算額（平成24年度）

【一般会計 歳入】



【一般会計 歳出】



鹿島市の今と昔

〈 昭和30年頃の庁舎 〉

■鹿島市役所

〈 昭和55年頃 〉

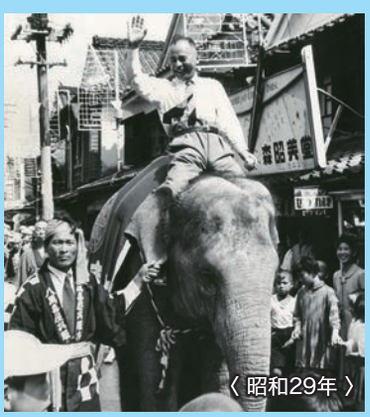
〈 現在 〉

■鹿島市街地

〈 昭和30年頃 〉

〈 現在 〉

移りゆく風景　―かしま―



〈 昭和29年 〉

市制施行祝賀記念式の様子

〈 昭和32年 〉

鹿島市で「佐賀大博覧会」が中川公園一帯で開かれました。その時の設備の一部です。池はもとの丸プールで、大きな木はヒマラヤシーダでその後台風で倒れました。

〈 昭和47年 〉

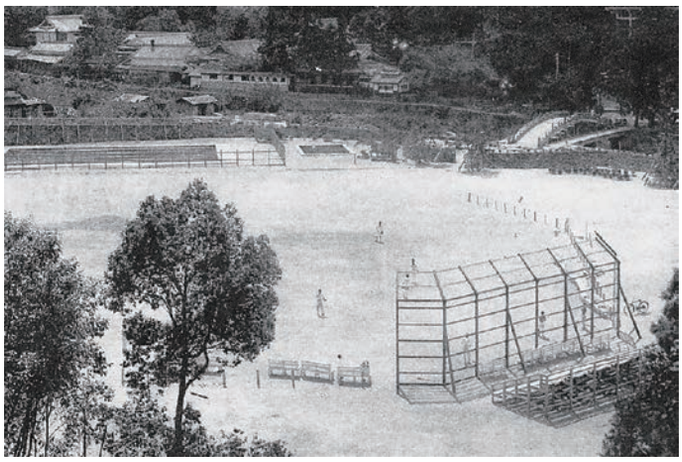
1日20トンの処理能力をもつごみ処理施設が完成し、美しい環境づくりに活躍しました。

■肥前鹿島駅

〈 昭和30年代 〉

〈 平成22年 〉

■祐徳国際球場〈 現在の祐徳稲荷神社外苑 〉



昭和27年4月、西鉄VS阪急の公式戦が行われました。

〈 現在 〉

〈 昭和54年 〉

昭和54年12月1日市役所新庁舎(現市庁舎)の落成記念式典が行われました。

〈 昭和60年 〉

第1回鹿島ガタリンピックが開催されました。

〈 平成26年 〉

大正3年(1914年)、旭ヶ岡公園に九州初となる夜桜電球が設置され、平成26年でちょうど100周年となることを記念して、ぼんぼりを模したちょうちん約200個が設置されました。

History of Kashima
60years of progress

60年の歩み

1954 ～ 1958

1954年〈昭和29年〉

4.1 市制施行（5町村が合併し鹿島市発足）
初市議会を中央農協で開催（議員94名）
各地区に市役所支所を設置
5.12 市長選挙、初代市長に松浦茂氏当選
教育委員選挙（5名）
7.16 農業委員会委員選挙（委員総数67名）
8.25 鹿島市章を制定
9.16 能古見川内に集団赤痢発生（患者108名　死者1名）
9.25 市営清掃事業開始

10.1 市制施行記念式典挙行
11.1 市営し尿処理事業開始
11.29 藤津地方事務所閉所

1955年〈昭和30年〉

3.1 七浦村（伊福を除く）を市に編入合併（6地区83部落となる）
3.4 能古見小学校早ノ瀬分校を廃止し中川内分校を開校
3.28 市議会議員選挙（議員30名）

3.31 北鹿島小学校校舎改築
都市計画道路鹿島駅-中川線330メートル竣工
市営住宅浜新町団地建設
4.1 鹿島市社会福祉協議会設置
県立鹿島高等学校を鹿島高校と鹿島実業高校に分離
4.10 鹿島市体育協会設立
4.23 県知事選挙、鍋島直紹氏再選
県議会議員選挙、
勝屋弘弼氏・永松光一氏当選
7.4 各地区農業共済組合が統合
8.8 市立伝染病隔離病舎竣工

1956年〈昭和31年〉

3.31 県営東町住宅建設
市営末光住宅・乙丸住宅建設
4.1 各地区の支所を廃止し七浦に出張所設置
5.1 鹿島市商工会設立
12.1 鹿島市観光協会設立

1957年〈昭和32年〉

3.15 佐賀産業観光大博覧会開会
5.5 祐徳博物館開設

8.1 市内各農業委員会が合併し、市一本で発足
10.27 鹿島市三道会が発足

1958年〈昭和33年〉

1.23 赤門・大手門が県重要文化財に指定
4.1 七浦小学校奥山分校を古枝小学校に移管
4.2 能古見農協有線放送電話事業開設
4.13 市長選挙、松浦茂氏当選（再選）

1959 ～ 1963

1959年〈昭和34年〉

2.13 上水道辻水源地と第二拡張工事が竣工
3.20 市議会議員選挙（全市1区・議員30名）
3.31 市営住宅小舟津団地建設
4.1 鹿島市社会教育委員を設置
敬老年金制度を創設
4.23 県議会議員選挙、勝屋弘弼氏・永松光一氏当選
6.2 参議院議員選挙、鍋島直紹氏当選
7.1 市有線放送電話事業を開設
9.23 中川公園を都市公園用地として買収
11.1 国民年金（福祉年金）制度施行
11.30 鹿島市建設計画を策定

１９６０年〈昭和３５年〉

3.24　音成面浮立が県無形文化財に指定
3.30　西牟田排水ポンプ場が竣工
4.1　市奨学資金制度を創設
浜・古枝・七浦の３中学廃止、東部中設置

8.20　鹿島高校夏の全国高校野球大会で準決勝進出
10.1　国民年金（拠出制度）施行

１９６１年〈昭和３６年〉

4.1　鹿島小学校校舎改築・３階建が竣工
納税貯蓄組合が発足（８８組合）
4.21　天皇・皇后両陛下行幸啓、乙丸を通過される
9.5　鹿島橋竣工都市街路鹿島駅-二本柳線開通
10.5　鹿島市青少年問題協議会を設置
12.4　第１期事務改善、窓口事務を統合

１９６２年〈昭和３７年〉

3.31　東部中校舎第１期工事２階建が竣工
4.15　市長選挙、松浦茂氏当選（３選）
7.8　集中豪雨により死者４名、不明１名（被害総額２７億円）
8.5　奥平谷キャンプ村を開設

9.17　鹿島小学校の完全給食開始
9.19　みかん共選場（末光）が落成
12.17　鹿島市常備消防部発足

１９６３年〈昭和３８年〉

1.27　鹿島・藤津地区医師会館が落成
4.1　鹿島・藤津地区医師会付属看護学院開院
4.17　県議会議員選挙、勝屋弘弼氏・永松光一氏当選
4.30　市議会議員選挙（議員３０名）
5.27　鹿島市塵芥焼却場を高津原に新設
8.15/16　第１回鹿島おどり開催
11.30　市営高津原西峰住宅建設

1964 ～ 1968

１９６４年〈昭和３９年〉

4.1　市制１０周年式典を挙行
6.12　中川橋が竣工開通
6.17　古枝小学校の給食施設が完成
10.1　鹿島市消防署を設置

１９６５年〈昭和４０年〉

1.20　中牟田下水路が完成
7.4　参議院議員選挙、鍋島直紹氏当選（再選）
10.30　県営小舟津住宅竣工

１９６６年〈昭和４１年〉

3.　赤痢集団発生（収容人員２６８名）
4.17　市長選挙、矢野正治氏当選
5.27　鹿島市民会館落成（工費１億６千万円）
11.16　国営浜干拓潮止め工事完成

１９６７年〈昭和４２年〉

3.30　国営パイロット横断道路竣工
県営山浦開拓道路竣工（７，２７４m）
4.15　知事・県議会議員選挙、県議に愛野興一郎氏・山口クニ氏当選
4.28　市議会議員選挙（３０名）
8～10　干害により米・みかんに大被害（４億円）

１９６８年〈昭和４３年〉

1.15　鍋島直紹氏国務大臣（科学技術庁長官）に就任
2.14　豪雪荒れ狂う（積雪１m、被害１６億円）
3.27　中村都市下水路竣工
5.5　市立給食センターの給食開始
5.20　ごみ処理場完成
7.1　市内５農協合併が許可、鹿島市農協発足
11.11　七浦干拓潮止め工事完成
11.21　上水道久保山水源地起工
11.27　共同衛生処理場「藤鹿苑」完成

1969 ～ 1973

1969年〈昭和44年〉

3.26 古枝農協を合併し鹿島市農協一本化さる
5.1 老人家庭奉仕員を設置
6.7/8 水稲病害虫予防のため航空防除を実施
7.1 身体障害者家庭奉仕員を設置
8.14/15 台風9号が直撃（被害6億円）
10.1 第1回文化祭開催
市営中央駐車場開設（収容能力104台）
10.18 財団法人開発公社が発足
11.10 皇太子殿下鹿島へ行啓・好日の園御慰問

1970年〈昭和45年〉

2.2 鹿島実高園芸科移転本館建設起工
2.16 救急業務スタート

3.1 乙丸ポンプ場が完成
3.14 鹿島市総合計画を策定
4. 米の生産調整が始まる
4.19 市長選挙、矢野正治氏無投票当選（再選）

1971年〈昭和46年〉

3.30 西牟田相生通りに真昼の大火（被災20世帯）
4.1 内職福祉センターを廃止
4.11 県議会議員選挙、愛野興一郎氏・大塚清次郎氏当選
4.25 市議会議員選挙（30名）
6.27 参議院議員選挙、鍋島直紹氏当選（3選）
7.1 杵藤地区広域市町村圏組合協議会発足
浜北舟津の夜回り総理大臣賞を受賞
9.1 福祉会館が落成

1972年〈昭和47年〉

1.1 児童手当支給開始さる
4.1 第2次事務改善・国土調査課を新設、地籍調査始まる
古枝小学校奥山分校を閉校
7.1 社会教育指導員を設置
7.28 平仁田儀助平で岩陰住居跡発見

8.8 杵藤地区広域市町村圏組合を設立
8.19 第1回老人趣味の作品展開催
10.2 ごみ収集有料化、市全域に袋詰ステーション方式
11.28 中央児童公園が完成
12.10 衆議院議員総選挙、愛野興一郎氏当選

1973年〈昭和48年〉

3.28 市民体育館・横田運動広場が完成
4.1 広域圏常備消防がスタート
4.7 北鹿島公民館が落成
4.20 中川公園に夜間照明施設を設置
7.28 七浦嘉瀬ノ浦子ども会が全国表彰受賞
8.18 東部中に50メートルプールが完成
12.11 杵藤ごみ処理センター完成
12.19 西部中学校校舎建設起工
12.29 市の木「金木犀」市の花「桜」を決定

1974 ～ 1978

1974年〈昭和49年〉

2.8 市立保育所みどり園移転新築工事完成
2.9 ふるさと映画「鹿島市・20才のすがた」完成
3.30 広域圏組合消防本部鹿島消防署庁舎完成
4.1 市制20周年記念式典挙行
鬼塚・経筒・飯田六地蔵を市文化財に指定
4.21 市長選挙、矢野正治氏当選（3選）
5.24 能古見公民館落成
10.5/6 第27回県民体育大会（鹿島・藤津）
10.30 鹿島市史全3巻が完成

1975年〈昭和50年〉

3. 七浦干拓圃場整備事業完了
4.1 鹿島市立西部中学校開校
4.13 県議会議員選挙、大塚清次郎氏・山口クニ氏当選
4.27 市議会議員選挙（30名）
7.16 祐徳運動広場完成
7.31 水道庁舎新築落成
8.1 杵藤地区葬斎公園完成

１９７６年〈昭和５１年〉

3.４	消防庁長官より市消防団に表彰旗授与
3.１１	鬼塚・命婦社を県重要文化財に指定
7.４	ママさんバレー鹿島旭クラブが県大会優勝
8.３	集中豪雨による災害（被害３６億円）
１０.１１	若楠国体開催される
１１.８	皇太子殿下・美智子妃殿下御来鹿
１１.３０	鹿島市有線放送を廃止
１２.５	衆議院議員総選挙、愛野興一郎氏当選（２選）

１９７７年〈昭和５２年〉

3.３１	都市計画街路中牟田-御神松線完成
6.２８	広瀬橋開通
7.１０	参議院地方区選挙、鍋島直紹氏当選（４選）

１９７８年〈昭和５３年〉

3.１	「肥前鹿島の石造文化」を刊行
3.１０	鹿島勤労者体育センター完成
4.２３	市長選挙、矢野正治氏当選（４選）
5.２０	横沢橋完成
5.	浜大橋完成
5.	鹿島市商工会館落成
5.	水田利用再編第１期対策始まる
8.	黒仁田養豚団地完成
１１.	組知橋完成
１１.２８	浜庄金の大火（８世帯・２８名被災）

１９８０年〈昭和５５年〉

2.２０	横田ポンプ場完成
3.	市営新方住宅建設
3.	林業センター及び資料館落成
3.３１	市役所七浦出張所廃止
4.１	鹿島商工会議所発足
4.１１	東部給食センター落成
6.２２	衆議院議員総選挙、愛野興一郎氏当選（４選）
１１.１５	国道２０７号百貫橋（２車線）完成
１１.３０	南舟津ポンプ場完成

１９８１年〈昭和５６年〉

2.２０	能古見小学校改築工事完成
2.	教育集会所落成
3.１６	「鹿島藩日記」県重要文化財に指定さる
3.３１	本城・山浦・中川内分校を閉校　漁村センター落成
4.	県道大村-鹿島 線の国道（４４４号）昇格
8.１	七浦西部地区簡易水道完成
8.	東部中庭球部九州大会優勝、全国大会３位
１０.４	休日急患センター落成
１０.１５	国営多良岳開拓パイロット事業完成（総事業費９４億円、造成面積６２９ｈａ）
１１.	鹿島川激甚災害復旧工事完成（４７億円）

１９８２年〈昭和５７年〉

3.１６	「ふるさと鹿島」の刊行
4.１８	市長選挙、馬場勝氏当選
6.２７	県少年サッカー大会で浜少年が優勝

1979　～　1982

１９７９年〈昭和５４年〉

1.３１	音成の面浮立、国の無形民俗文化財に選定

3.２９	救世神社「狛犬」を市文化財に指定
4.１	市民憲章を制定
4.８	県議会議員選挙、大塚清次郎氏・織田桃彦氏当選
4.２２	市議会議員選挙（２６名）
5.２３	第二次鹿島市総合計画を策定
8.	市営西牟田住宅団地建設
１０.７	衆議院議員総選挙、愛野興一郎氏当選（３選）
１２.１	市役所新庁舎落成・移転
１２.７	多良岳横断林道完成

1983 ～ 1989

1983年〈昭和58年〉

1.1 日本の自然百選に多良岳が選定
2.1 老人保健法施行
3.1 農業委員会委員定員改正（25名）
3.8 鹿島実高園芸科（浜校舎）を閉校
3.23 浅浦面浮立を市文化財に指定
3. 石木津川改修工事完成（工事費12億円）
3. 古枝小学校改築工事完成
3. 北鹿島カントリーエレベーター完成
4.10 県議会議員選挙、大塚清次郎氏・矢野正治氏当選
4.24 市議会議員選挙（26名）
10. 県営北鹿島たん水防除事業完成
12.18 衆議院議員総選挙、愛野興一郎氏当選（5選）

1984年〈昭和59年〉

1. 豪雪によるハウス被害発生（被害4億円）
2.1 特急さくら号肥前鹿島駅停車実現
4.15 全国青年研究所「田澤記念館」落成

5.11 七浦に海洋センター（プール・艇庫）完成
11.16 第三次鹿島市総合計画を策定

1985年〈昭和60年〉

2.8 日本消防協会特別表彰（纏賞）受賞
3.18 浜小学校改築工事完成
3.30 「ガタスキーゾーン」と「七浦体育館」が七浦海浜スポーツ公園に完成
4.1 市庁舎前にタイムカプセルを埋設
4.6 市制30周年記念式典挙行
「市民の歌」を制定
「鹿島の方言」を発刊

5.3 「第1回鹿島ガタリンピック」開催される

8.9 「第1回鹿島市少年の船」沖縄へ出航
10.30 「鍋島直紹伝」が発刊される
11.20 鹿島市勤労者福祉センターが落成

1986年〈昭和61年〉

2.7 西部中科学部が学生顕微鏡観察コンクールで文部大臣賞を受賞
3.31 農村婦人の家が完成
4.20 市長選挙、馬場勝氏無投票当選（再選）
6.30 林業体育館が落成
7.7 衆議院議員総選挙、愛野興一郎氏当選（6選）
参議院議員地方区選挙、大塚清次郎氏当選
11.30 学校給食センターが完成
12.16 中牟田排水ポンプ場が一部完成

1987年〈昭和62年〉

3.14 臥竜ヶ岡公園が完成
3.25 「鹿島の人物誌」を発刊
4.12 県議会議員選挙、大島包氏・矢野正治氏当選
4.15 干潟物産館が七浦海浜スポーツ公園に完成
4.26 市議会議員選挙（26名）
9. 中学校で外国人英語指導助手の授業始まる
9.17 公共下水道事業第1期計画区域で工事着工
11.14 東部農免農道（鹿島大橋）開通
11.20 七浦地区が豊かなむらづくりで農林水産大臣賞を受賞

1988年〈昭和63年〉

3.7 保育所みどり園改築工事が完成
4.25 鹿島市シルバー人材センターが発足
4. みかん園地再編対策始まる
8. 北鹿島小学校新校舎完成

10. ソウル・パラリンピックにおいて吉田重利さんアーチェリーで銅メダル
12. 「サガマンダリン」デビュー

1989年〈昭和64年〉

1.7 昭和天皇崩御

1990 ～ 1993

１９８９年〈平成元年〉

1.24　愛野興一郎氏国務大臣（経済企画庁長官）に就任
3.　鹿島市民武道館完成

4.1　鹿島市ごみ処理場廃止
　　杵藤クリーンセンターオープン
6.20　鹿島市体育協会法人化
6.　「佐賀県肥前国・藤津郡村誌」発刊
10.7/8　第４２回県民体育大会開催
12.　鹿島市国土利用計画を策定

１９９０年〈平成２年〉

2.18　衆議院議員総選挙、愛野興一郎氏当選（７選）
3.　鹿島市シルバー人材センターが法人化
3.　七浦小学校音成分校改築工事完成
4.22　市長選挙、桑原允彦氏当選
7.2　集中豪雨による災害（被害３０億円）
9.1　北鹿島体育館が落成
10.　雇用促進住宅「サン・コーポラス古枝」建設
10.　鹿島市体育協会が文部大臣賞を受賞

１９９１年〈平成３年〉

1.　年賀切手に「のごみ人形」の十二支土鈴「羊鈴」が採用
2.8　海童保育園幼年消防クラブが優良団体として全国表彰を受賞
2.13　能古見婦人防火クラブが日本消防協会会長賞を受賞
4.6　鹿島市立明倫小学校開校
4.7　県議会議員選挙、峰松節治氏・大島包氏当選
4.21　市議会議員選挙（２６名）
9.13/14　台風１７・１９号が直撃（被害２３億円）
10.1　鹿島市干潟展望館「むつごろう」オープン

10.23　鹿島市が活力ある美しいむらづくりコンクールで
　　九州農政局長賞を受賞

１９９２年〈平成４年〉

1.10　市民課窓口オンラインシステム開始
3.2　好日の園デイ・サービスセンター完成
3.22　赤門野外博物館完成
5.19　中木庭ダム損失補償協定調印
5.　鹿島市桜樹保存会が建設大臣賞を受賞
7.26　参議院議員選挙、大塚清次郎氏当選（再選）
11.22　第４回九州高校駅伝競走大会で鹿島実高が１時間８分１３秒
　　の高校最高記録で初優勝
12.10　ＪＲ長崎本線廃止反対の看板設置

１９９３年〈平成５年〉

2.15　第１回盛年の集い開催
3.21　花のトンネル完成
4.　中木庭ダム建設に伴う集団移転地造成工事完成
6.　鹿島駅前駐輪場完成
7.18　衆議院議員総選挙、愛野興一郎氏当選（８選）
10.1　のごみふれあい楽習館オープン

11.3　第７回県高校女子駅伝競走大会で鹿島実業高校７連覇
11.6　自然かしまの鵜飼まつり開催

1994 ～ 1998

1994年〈平成6年〉

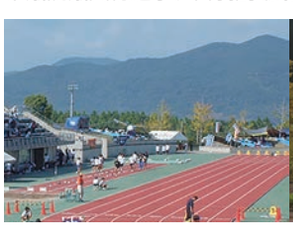
4.24	市長選挙、桑原允彦氏当選（再選）
4.26	道の駅鹿島登録（九州で第１号）
4.	都市計画街路小舟津―広瀬線開通
4.	中木庭ダム建設に伴い筒口区へ移転
7.22	第１回全国鹿島サミット
10.1	鹿島市公共下水道供用開始
10.7	市制４０周年記念式典挙行

1995年〈平成7年〉

3.1	鹿島市４漁協合併
3.21	第１回海の森植樹祭を開催
4.9	県議会議員選挙、竹下洋典氏・乗田寿氏当選
4.23	市議会議員選挙（２４名）
9.5	ナイター議会初開催

1996年〈平成8年〉

3.26	鹿島市陸上競技場完成
5.1	鹿島市観光トイレ落成
	鹿島市観光協会事務所古枝に移転
6.11	自然の館「そよかぜ」開館
9.5	国道２０７号バイパス一部供用開始（中村工区、浜工区）
10.5/6	第４９回県民体育大会を鹿島・藤津地区で開催
10.20	衆議院議員総選挙、今村雅弘氏当選



1997年〈平成9年〉

1.22	大韓民国全羅南道高興郡と友好結縁締結
2.	新浜大橋竣工
4.8	たまねぎ選果場落成（浜町）

1998年〈平成10年〉

4.1	除籍・改製原戸籍管理システム導入
4.19	市長選挙、桑原允彦氏当選（３選）
8.1	スカイロード開通式
8.1	市営中央駐車場開設
10.4	第１回伝承芸能フェスティバル開催

1999 ～ 2002

1999年〈平成11年〉

3.	藤鹿苑第１し尿処理場竣工
3.	浜宿伝統的建造物群保存対策調査報告書刊行
3.16	平谷黒木トンネル開通
3.30	七浦海浜スポーツ公園に温水シャワー完成
4.1	杵藤地区介護保険事務所設置、事業開始
4.1	北公園完成
4.11	県議会議員選挙、乗田寿氏・峰松節治氏当選
4.25	市議会議員選挙（２４名）
5.	公文書のファイリングシステム導入
5.	映画「いのちの海」鹿島市を舞台に製作
5.22	西牟田地区区画整理事業完成
6.29	集中豪雨による災害（８億４千万円）
8.25	全日本少年軟式野球大会で東部中学校野球部優勝
12.21	鹿島市観光物産センターが鹿島駅に開設

2000年〈平成12年〉

2.7	大村市と「しあわせ街道交流宣言」を締結
4.1	介護保険システム稼働
6.25	衆議院議員総選挙、今村雅弘氏当選（再選）
10.	第四次鹿島市総合計画を策定

2001年〈平成13年〉

1.1	ミレニアムイベント開催
4.1	生涯学習センター「エイブル」開館
4.1	鹿島市民球場完成
4.1	杵島藤津地区８ＪＡの合併による佐賀みどり農業協同組合の発足
8.21	佐賀マイスター（建築板金）に峰松昭次郎氏認定
9.27	「エイブル」と「有明町スカイパーク」の相互利用協定締結
10.9	中木庭ダム本体建設着工

2003 ～ 2006

２００２年〈平成１４年〉

3.7	「テレトピア構想モデル地域」に藤津・鹿島（１市３町）が指定を受ける
3.21	全国初「鹿島市山の日」施行
3.25	「東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク」登録
4.21	市長選挙、桑原允彦氏当選（４選）
7.1	武雄市、鹿島市、山内町、太良町、塩田町、嬉野町の２市４町で「杵藤西部地区任意合併協議会」を設置
7.16	ネット鹿島がＣＡＴＶ開局
8.5	住基ネットワークシステム第１次稼働
9.6	ケーブルテレビで議会放送開始

２００３年〈平成１５年〉

1.16	肥前浜宿「継場」開場
1.24	杵藤西部地区合併協議会設置議案を否決
1.31	杵藤西部地区任意合併協議会を解散
3.3	鹿島市中村に介護保険事業所新庁舎落成
3.15	光センサー式みかん選果場落成
4.7	鹿島市・太良町合併検討協議会（任意協議会）を設置
4.13	県議会議員選挙、土井敏行氏当選
4.27	市議会議員選挙（２２名）
5.16	鹿島市・太良町合併協議会（法定協議会）設置案を可決
5.29	鹿島市・太良町合併協議会を設置し、発会式及び第１回協議会を開催
7.15	鹿島市漁協が緑化推進功労者内閣総理大臣賞を受賞
8.8	鹿島おどり４０回記念大会
8.25	住基ネットワークシステム第２次稼働
10.4/5	第５６回県民体育大会を鹿島・藤津地区で開催
10.30	釜山外国語大学校と「官・学国際交流協定」を締結
11.9	衆議院議員選挙、今村雅弘氏当選（再選）
12.18	国道２０７号鹿島バイパスを全線開通

２００４年〈平成１６年〉

4.13	第２０回合併協議会において、合併協定５３項目すべての協議を終了
5.30	鹿島ガタリンピック２０回記念大会
6.1	中木庭ダム定礎式開催
6.5	鹿島市・太良町合併協定調印式を開催
8.8	鹿島市制５０周年記念式典を挙行
8.	市制５０周年記念誌「鹿島五十年のあゆみ」を発刊
8.	市制５０周年「鹿島市市勢要覧」を発刊
11.14	中心商店街生誕１００年祭開催

２００５年〈平成１７年〉

1.17	戸籍のコンピューター化
1.27	国道４４４号中木庭トンネル貫通式
3.11	鹿島市・太良町合併協議会を解散
10.2	蟻尾山公園にグラウンド・ゴルフ場完成
10.7	旧乗田家住宅が市重要文化財に指定

２００６年〈平成１８年〉

3.	鹿島市高齢者憲章制定
	鹿島市財政改革大綱を策定
4.1	鹿島市地域包括支援センター設立
	嬉野警察署と合併し、新鹿島警察署に
4.2	鹿島市消防団女性部誕生

4.16	市長選挙、桑原允彦氏当選（５選）
4.21	重要伝統的建造物群保存地区選定（国）（浜庄津町浜金屋町、浜中町八本木宿）

4.	三源寺トンネル開通
7.9	『さくら通り商店街』街路事業完成
7.19	佐賀大学と鹿島市が相互協力協定を締結
7.1	かしま市民立楽修大学開校
	「肥前浜宿」の名称を特許庁に商標登録
9.11	『㈱ジェイエイビバレッジ佐賀』鹿島市に生産工場を集約

2007 ～ 2014

2007年〈平成19年〉

4. 市内6土地改良区が合併し、鹿島市土地改良区に組織改正
6.3 中木庭ダム竣工（H18．9月末完成、H18.10月から試験湛水開始）
10.14 三道会設立50周年記念式典開催
12.16 九州新幹線長崎ルート三者基本合意

2008年〈平成20年〉

1.16 トヨタ系自動車部品メーカーの旭工業㈱が谷田工場団地へ進出
3.27 九州新幹線長崎ルートの着工認可
経営分離反対運動の終息宣言
4.6 鹿島城赤門建立200年記念イベント
4.28 長崎ルート着工
8.11 「島田洋七の佐賀のがばいばあちゃん」鹿島市で現地ロケがはじまる
8.14 ボクシング日本代表で鹿島市出身の川内将嗣選手が北京五輪に出場
9.11 鈴田滋人氏が人間国宝に認定される

2009年〈平成21年〉

5.10 有明海の干潟　日本の地質百選に認定
7.20 中木庭ダムやまびこ広場と渓流広場落成
11.12 母ヶ浦の面浮立、天皇陛下即位20年の祭典で皇居前で披露

2010年〈平成22年〉

4.18 鹿島市長選挙で樋口久俊氏が初当選
4.22 市道中木庭ダム線が開通
7.9 浜大橋完成
8. 広報かしま1000号到達
10.1 市内循環バスの実験運行始まる
10.2 高津原のりあいタクシーの実験運行始まる
11.29 鹿島小学校北校舎が完成

2011年〈平成23年〉

3.5 多良岳オレンジ海道が全線開通

4. 第五次鹿島市総合計画を策定
6.3 祐徳本因坊戦第60回記念大会開催
9.6 「インターナショナル・ワイン・チャレンジ2011」富久千代酒造㈲「鍋島大吟醸」が世界一となる、「チャンピオン・サケ」受賞
9.26 九州大学と鹿島市が包括連携協定締結

2012年〈平成24年〉

2. 鹿島市が初めてスポーツ合宿誘致を行い、明治大学と大東文化大学の陸上部を受け入れる
3.24/25 第1回鹿島酒蔵ツーリズム
6.1 鹿島ニューディール構想発表
10. 伊能忠敬来鹿200年記念事業
10.20 千葉県香取市と『まちづくり連携に関する協定』締結

2013年〈平成25年〉

3.30 鹿島市イメージキャラクター「かし丸くん」誕生

4.12 鹿島市が「酒蔵ツーリズム」を商標登録
5. 碁聖寛蓮碁式献上1100年記念事業を開催
8.9/10 鹿島おどり50回記念大会開催
10.29 第2回全国『道の駅』連絡会総会シンポジウムを鹿島市で開催

2014年〈平成26年〉

1. のごみ人形『稲荷駒』年賀切手のデザインに採用
3. 旭ヶ岡桜まつり夜桜電飾100周年記念事業を開催

4.20 鹿島市長選挙、樋口久俊氏当選（再選）
4.30 産業活性化施設『海道（みち）しるべ』オープン
5.25 鹿島ガタリンピック30回記念大会開催
9. 市制60周年「鹿島市市勢要覧」を発刊
10.26 市制60周年記念式典を挙行